

平成 28 年度
男女共同参画の施策に関する
推進状況報告書



～ 目 次 ～

1	登米市男女共同参画基本計画の概要	- 1 -
2	基本計画の実施状況及び評価	- 4 -
	《基本方針 I 男女が互いの人権を尊重し合うまちづくり》	- 6 -
	◆基本目標 1 男女間のあらゆる暴力の根絶【重点目標】	- 8 -
	◆基本目標 2 男女平等の意識改革	- 11 -
	◆基本目標 3 男女平等教育の推進	- 16 -
	《基本方針 II 男女が共に参画するまちづくり》	- 20 -
	◆基本目標 1 地域における男女共同参画の推進【重点目標】	- 21 -
	◆基本目標 2 家庭生活における男女共同参画の推進	- 28 -
	◆基本目標 3 職場における男女共同参画の推進	- 30 -
	◆基本目標 4 政策・方針決定過程への女性の参画	- 35 -
	《基本方針 III 男女共同参画の環境を整備するまちづくり》	- 37 -
	◆基本目標 1 子育てにおける男女共同参画の推進【重点目標】	- 38 -
	◆基本目標 2 介護における男女共同参画の推進	- 44 -
3	第3期登米市特定事業主行動計画（平成28年度実績）	- 46 -
4	数字で見る登米市の男女共同参画推進状況	- 47 -

【参考】

- ◎平成28年度登米市男女共同参画審議会を開催状況・・・・・・・・・・ -52-
- ◎だれもが生き生きと暮らせる登米市男女共同参画推進条例・・・・・・ -53-

1 登米市男女共同参画基本計画の概要

(1) 登米市男女共同参画基本計画の趣旨

登米市では、「だれもが生き生きと暮らせる登米市男女共同参画推進条例（以下「条例」という。）」を平成 23 年 4 月に施行し、性別にかかわらず一人ひとりの人権が尊重され、生涯にわたり豊かな人生を実現できるまちを目指しています。

この条例に基づき、平成 24 年 3 月に「第 2 次登米市男女共同参画基本計画・行動計画」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを推進してきたところです。

しかし、家庭や職場、地域の中で、男女の固定的な役割分担意識や社会慣行が今なお残っており、仕事と生活のバランスが取れていないこと、重要な方針や計画を決定する場に女性が少ないことなど解決しなければならない課題が多く残されていることから、これまでの取り組みや市民アンケート結果を踏まえながら、今後も引き続き男女共同参画社会の実現に向けた取り組みを総合的かつ計画的に推進するため「第 3 次登米市男女共同参画基本計画（以下「基本計画」という。）」を策定しました。

(2) 基本計画の性格と位置づけ

この基本計画は、「男女共同参画社会基本法」第 14 条第 3 項に基づく計画であるとともに、条例で規定する男女共同参画の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、基本理念に基づき策定するものです。

また、基本計画の基本目標「男女間のあらゆる暴力の根絶」に関する内容を「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律」第 2 条の 3 第 3 項に基づく基本計画として位置づけるとともに、基本目標「職場における男女共同参画の推進」及び「政策・方針決定過程への女性の参画」に関する内容を「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」第 6 条第 2 項に基づく推進計画と位置づけ、施策を推進します。

(3) 基本計画の期間

平成 28 年度から平成 32 年度までの 5 年間とします。

(4) 基本計画の推進

基本計画においては、基本方針や基本目標などを定めて男女共同参画社会の実現に向けた施策の推進に取り組むこととし、条例に基づき、毎年、施策の実施状況等を公表します。

(5) 基本計画の体系

基本方針	基本目標	施策の方向性
I 男女が互いの人権を尊重し合うまちづくり	【重点目標】 1 男女間のあらゆる暴力の根絶	(1)暴力の根絶に向けた意識啓発の推進 (2)相談・支援体制等の充実
	2 男女平等の意識改革	(1)男女共同参画の意識啓発の推進 (2)関係機関等からの情報収集と市民等への情報提供 (3)調査研究・分析の推進
	3 男女平等教育の推進	(1)男女共同参画の視点に立った学校教育の推進 (2)多様な選択を可能にする生涯学習機会の充実 (3)男女平等の視点に立った性に関する教育・啓発の充実
II 男女が共に参画するまちづくり	【重点目標】 1 地域における男女共同参画の推進	(1)男女共同参画の視点に立った地域活動の推進 (2)防災における男女共同参画の推進 (3)男女共同参画の視点を持ったコミュニティリーダーの育成・支援 (4)男女共同参画を推進する団体等の育成・支援 (5)外国人が安心して暮らせる環境の整備
	2 家庭生活における男女共同参画の推進	(1)男女の固定的な役割分担意識の改善 (2)家事・育児・介護等における男女共同参画の推進
	3 職場における男女共同参画の推進	(1)男女の雇用機会の均等な確保と待遇の改善 (2)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)の推進 (3)農林業・自営業従事者の女性支援 (4)セクシュアル・ハラスメントの防止に向けた意識啓発の推進
	4 政策・方針決定過程への女性の参画	(1)各種審議会等委員における女性登用の推進 (2)市管理職への女性登用の推進 (3)市政への参画の促進
III 男女共同参画の環境を整備するまちづくり	【重点目標】 1 子育てにおける男女共同参画の推進	(1)子育て環境の整備 (2)子育て支援体制の整備
	2 介護における男女共同参画の推進	(1)介護に関する社会的支援の充実 (2)男性の介護知識や介護技術の普及 (3)地域における介護支援体制の確立

(6) 数値目標

	項目	現況値 H26.3	前回調査値 H23.1	目標値
1	「男女共同参画」の具体的内容の認知度	73.2%	72.0%	100%
2	「男は仕事、女は家庭」などの性別による固定的な役割分担意識をもたない人の割合	58.1%	55.5%	90%
3	D V（配偶者やパートナーからの暴力）の相談窓口の認知度	83.0%	79.8%	100%
4	家庭生活上で男女の地位が平等だと思う人の割合	29.0%	27.7%	50%
5	職場で男女の地位が平等だと思う人の割合	24.3%	21.2%	50%
6	地域社会の中で男女の地位が平等だと思う人の割合	21.3%	19.4%	50%
7	社会通念、習慣、しきたりなどで男女の地位が平等だと思う人の割合	12.1%	11.8%	50%
8	ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の具体的内容の認知度	36.6%	33.3%	50%
9	女性委員がいる審議会等の割合 ※	(H29.4.1) 71.1%	(H28.4.1) 76.4%	100%
10	審議会等における女性委員の登用割合 ※	(H29.4.1) 25.7%	(H28.4.1) 25.3%	40%

注1. 現況値欄は、平成26年3月に実施した市民アンケート調査による数値（調査対象：市内在住の満20歳以上の市民2,000人、有効回答数845（男性361人、女性475人、不明9人）、有効回答率42.3%）

注2. 審議会等の範囲：条例・規則・要綱・要領で定める審議会、委員会、協議会等

2 基本計画の実施状況及び評価

第3次登米市男女共同参画基本計画においては、3つの基本方針に基づき、特に重点的に取り組むべき重点目標を定め男女共同参画社会の実現に向けた施策を展開してきました。平成28年度については、行動計画に記載されている80事業のうち事業実施年度にあたる79事業について担当課による評価を行いました。

○平成28年度実施状況一覧

区 分	事業数	実施 事業数	評価			達成率 (A+B)/事業数
			A)計画 以上	B)計画 どおり	C) 未成果	
I 男女が互いの人権を尊重し合うまちづくり	26	26	6	20	0	100.0%
1 男女間のあらゆる暴力の根絶	7	7	0	7	0	100.0%
(1) 暴力の根絶に向けた意識啓発の推進	2	2	0	2	0	100.0%
(2) 相談・支援体制等の充実	5	5	0	5	0	100.0%
2 男女平等の意識改革	9	9	4	5	0	100.0%
(1) 男女共同参画の意識啓発の推進	5	5	3	2	0	100.0%
(2) 関係機関等からの情報収集と市民等への情報提供	1	1	1	0	0	100.0%
(3) 調査研究・分析の推進	3	3	0	3	0	100.0%
3 男女平等教育の推進	10	10	2	8	0	100.0%
(1) 男女共同参画の視点に立った学校教育の推進	3	3	0	3	0	100.0%
(2) 多様な選択を可能にする生涯学習機会の充実	4	4	0	4	0	100.0%
(3) 男女平等の視点に立った性に関する教育・啓発の 充実	3	3	2	1	0	100.0%

区 分	事業数	実施 事業数	評価			達成率 (A+B)/事業数
			A)計画 以上	B)計画 どおり	C) 未成果	
II 男女が共に参画するまちづくり	35	35	3	27	5	85.7%
1 地域における男女共同参画の推進	17	17	2	13	2	88.2%
(1) 男女共同参画の視点に立った地域活動の推進	8	8	2	5	1	87.5%
(2) 防災における男女共同参画の推進	2	2	0	1	1	50.0%
(3) 男女共同参画の視点を持ったコミュニティリーダーの育成・支援	2	2	0	2	0	100.0%
(4) 男女共同参画を推進する団体等の育成・支援	3	3	0	3	0	100.0%
(5) 外国人が安心して暮らせる環境の整備	2	2	0	2	0	100.0%
2 家庭生活における男女共同参画の推進	3	3	0	3	0	100.0%
(1) 男女の固定的な役割分担意識の改善	1	1	0	1	0	100.0%
(2) 家事・育児・介護等における男女共同参画の推進	2	2	0	2	0	100.0%
3 職場における男女共同参画の推進	10	10	1	6	3	70.0%
(1) 男女の雇用機会の均等な確保と待遇の改善	3	3	0	2	1	66.7%
(2) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進	3	3	1	2	0	100.0%
(3) 農林業・自営業従事者の女性支援	3	3	0	1	2	33.3%
(4) セクシュアル・ハラスメントの防止に向けた意識啓発の推進	1	1	0	1	0	100.0%
4 政策・方針決定過程への女性の参画	5	5	0	5	0	100.0%
(1) 各種審議会等委員における女性登用の推進	2	2	0	2	0	100.0%
(2) 市管理職への女性登用の推進	2	2	0	2	0	100.0%
(3) 市政への参画の促進	1	1	0	1	0	100.0%

区 分	事業数	実施 事業数	評価			達成率 (A+B)/事業数
			A)計画 以上	B)計画 どおり	C) 未成果	
Ⅲ 男女共同参画の環境を整備するまちづくり	18	18	0	18	0	100%
1 子育てにおける男女共同参画の推進	14	14	0	14	0	100%
(1) 子育て環境の整備	5	5	0	5	0	100%
(2) 子育て支援体制の整備	9	9	0	9	0	100%
2 介護における男女共同参画の推進	4	4	0	4	0	100%
(1) 介護に関する社会的支援の充実	2	2	0	2	0	100%
(2) 男性の介護知識や介護技術の普及	1	1	0	1	0	100%
(3) 地域における介護支援体制の確立	1	1	0	1	0	100%
総 計 (基本方針Ⅰ～Ⅲ)	79	79	9	65	5	93.7%

※ 実施事業数に含まれるものは、次ページ以降の実施状況欄について「1. 実施した」「2. 検討したが実施しなかった」とされた事業

《基本方針 I 男女が互いの人権を尊重し合うまちづくり》

○評価の概要

基本方針 I については、26 事業の評価を行いました。実施したすべての事業について、計画以上（A 評価）または計画通りの成果（B 評価）をあげ、3 つの基本目標はおおむね達成されています。

基本方針 I の 3 つの基本目標のうち、A 評価が最も多かったのは「基本目標 2 男女平等の意識改革」で、特に人権に関する啓発活動について高い成果を挙げました。

重点目標としている「基本目標 1 男女間のあらゆる暴力の根絶」については、被害相談や未然防止のための体制の充実に努めました。家庭児童相談員による DV（ドメスティック・バイオレンス）への実対応件数や個別相談事業への相談者数は減少したものの、継続して意識啓発に取り組み、各関係機関との連携の強化に努めます。

○評価基準

【実施状況】

1. 実施した
2. 検討したが実施しなかった
3. 検討しなかった

【評価基準】

- A. 計画以上の成果を上げた
- B. 計画どおりの成果があった
- C. 成果をあげることができなかった

◆基本目標 1 男女間のあらゆる暴力の根絶【重点目標】

暴力は重大な人権侵害であるということを認識し、正しい知識を習得するための学習機会を提供するとともに、被害者支援のための相談体制の充実を図ります。

(1) 暴力の根絶に向けた意識啓発の推進

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
①DV についての意識向上に向けた啓発の推進 DV（ドメスティック・バイオレンス）に関するリーフレット等を市内の公共施設等へ設置するとともに、各種イベントでの配布をすることにより、DV についての意識向上を図ります。	1	「女性に対する暴力をなくす運動」期間にあわせ総合支所へのポスター掲示・チラシ設置を行った。 また、デートDV に関するリーフレットを配布した。 ・成人式：900 部 ・デートDV 防止講習会：110 部	B	暴力をなくす運動期間にあわせた周知や、新成人に向けたリーフレットの配布を行い、DV 等の防止に向けた啓発が図られた。	暴力の根絶に向けた啓発のため、広報での周知や、リーフレットの設置・配布を行っていく。	市民協働課
②デートDV 講習会の実施 若い世代における恋人間での暴力（デートDV）の防止に向けた知識の習得を図ります。	1	暴力の根絶に向けた学習機会として、デートDV 防止講習会を実施した。 ・デートDV 防止講習会 対象者：市内高校生 開催校：登米高校 参加生徒数：110 人	B	デートDV の内容やDV 犯罪の内容等を知ることにより、現状や課題の理解を図った。また、インターネット等で性に関する情報が氾濫する中で、心身の健康を保つため、性に関する正しい情報の提供が図られた。	男女間のあらゆる暴力の根絶に向け、継続した学習機会の提供及び啓発を実施する。また、前年度中に市内高校への開催予告通知を行うことで、開催校の拡大を図る。	市民協働課

(2) 相談・支援体制等の充実

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>① 相談窓口の周知徹底</p> <p>被害者相談窓口や電話相談に関するリーフレットを市内の公共施設・医療機関等へ設置するとともに、広報等を活用した相談窓口の周知徹底を図ります。</p>	1	<p>D V等の被害者を対象とした電話相談や面談、心のケアの講座等に関するチラシやリーフレットを、市内の公共施設・医療機関等に設置した。</p> <p>・市内小中学校、病院、警察署、保育所、幼稚園等</p>	B	<p>D V等の被害者が訪れる病院や警察署に加え、加害者に見られることが少ないトイレ等にチラシを設置することで、より効果的な周知を図った。</p>	<p>チラシ等の設置施設への聞き取りを継続し、被害者に届く周知となるよう、設置場所や方法を工夫していく。</p>	市民協働課
<p>② 専門家による被害者相談会の実施</p> <p>関係機関や支援団体等と連携し被害者相談会を開催します。</p>	1	<p>宮城県及びN P O 法人ハーティ仙台との連携を図り、D Vや離婚で悩んでいる女性が安心して相談できる機会を設け、問題の解決や心の回復を図るための講座等を実施した。</p> <p>・パープルタイム (グループミーティング) 開催数：11回 相談者数 17人 (個別相談) 開催数：11回 相談者数 9人</p> <p>・こころのケア講座 開催数：7回 参加者数 43人</p>	B	<p>こころのケア講座では、ボランティアや支援者の参加も見られ関心の高さが伺えた。</p> <p>個別相談やグループミーティングの参加者は昨年より減ったが、昨年利用した人が再度利用するなど参加者にとっては安心して相談・参加できる場所として機能している。</p> <p>相談内容も多岐にわたるため、今後も関係機関との連携が必要である。</p>	<p>個別相談会やこころのケア講座に関する情報提供を行い、安心して相談できる場として定着できるよう関係機関との更なる連携を図る。</p>	子育て支援課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
③保護命令申し出等 に係る関係機関への 同行支援 緊急一時保護や自立 に向けた保護命令の申 し出を含め関係機関へ の同行支援を実施しま す。	1	D V 対応：実件数 6 件 (延べ 134 回) 一時保護：2 件	B	緊急時の一時保護については、 関係機関と連携を図り、相談者の 意向を確認・尊重しながら支援を 行った。 また、関係機関と情報共有しな がら役割分担を行い、保護命令申 し出等の調整を行った。	保健福祉事務所等と連携 を図り、D V 被害者の救済に あたり、支援体制の充実に努 める。	子育て支援 課
④緊急用避難住宅の 設置 D V 被害者の一時避 難用住宅を確保し、被 害者の保護及び自立に 向けた支援を行います。	1	実績なし (確保住宅数：1 戸)	B	それぞれの問題に対応する法を 適用して保護措置が進められたこ とによって、一時保護を必要とし なかったものの、事業利用が必要 になる場合も想定される。	市営住宅居住者の緊急事 態対応用に、住宅管理側で確 保している住宅 1 戸を利用 する形で事業を継続する。	生活福祉課
⑤家庭児童相談員の 設置 配偶者等から暴力を 受けている被害者の子 どもに対する支援を行 います。	1	相談者数：13 人 延べ回数：163 回	B	保健福祉事務所や各関係機関と 連携を図りながら、被害者やその 子どもたちが安心して相談できる 場面づくりや、寄り添った相談業 務を行った。	今後も関係機関と連携を 図りながら相談業務を遂行 し、必要時にはカウンセリング や個別相談につなげるな ど、継続した支援を行う。	子育て支援 課

◆基本目標 2 男女平等の意識改革

男女共同参画社会の実現のためには、男女が社会のあらゆる場で、お互いの人権を尊重し、対等な立場で責任を分かち合う社会を形成していくための意識改革を図ることが必要です。

今なお「男は仕事、女は家庭」などの性別による固定的な役割分担意識があることから、男女共同参画社会の意義について理解を深め行動に繋げてもらうため、意識啓発や情報提供を推進します。

(1) 男女共同参画の意識啓発の推進

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
① 広報やホームページを活用した意識啓発の推進 あらゆる世代の人々が男女共同参画の必要性について共感できるよう、身近な男女共同参画に関する情報の発信を行い、意識の高揚を図ります。	1	<p>広報誌及びホームページへの掲載、コミュニティ FM を活用した啓発を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に関する各種講座受講生募集（7月号） ・男女共同参画の施策に関する推進状況報告書（10月号） ・ワーク・ライフ・バランス企業セミナーに関するお知らせ（11月号） ・男女共同参画フォーラム開催のお知らせ（12月号） 	B	<p>男女共同参画の施策に関する推進状況報告書について広報に掲載した。</p> <p>また、各種講座の募集時に広報とめへの掲載を行った。男女共同参画フォーラムについては、450人の参加者が訪れ、周知の効果が見られた。</p>	<p>男女共同参画社会の必要性に関する理解を深めるため、広く情報の提供を図る。</p> <p>また、男女共同参画週間（6月23～29日）や、女性に対する暴力をなくす運動（11月12～25日）のキャンペーンにあわせた意識啓発について、効果的な周知方法の検討を行う。</p>	市民協働課
② 男女共同参画フォーラムの実施 男女共同参画をテーマにした講演会を実施します。	1	<p>男女共同参画フォーラムを開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画フォーラム「母として、女将として、一人の女性として」開催日：平成 29 年 1 月 15 日（日）講師：花田 景子 氏（貴乃花部屋女将）参加者：450 人 	A	<p>男女共同参画フォーラムは、登米人権擁護委員協議会との共催で実施し、過去 5 年で最高の動員数となった。</p> <p>家庭の在り方や役割分担を、ライフステージや家族の現状によって変化させていくことの必要性について意識醸成が図られた。</p>	<p>男女共同参画社会の実現に向け、関係課と連携を図りながら、講座や講演会などの学習機会の提供に努める。</p>	市民協働課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>③男女共同参画社会に向けた各種取り組みについての周知</p> <p>広報やパンフレット等を活用し、各種取り組みについての周知を図ります。</p>	1	<p>第3次登米市男女共同参画基本計画の概要版パンフレットを講座・講演会の際に配布した。また、公民館等へ設置した。</p> <p>・男女共同参画フォーラム：450部 ・女性リーダー養成講座：21部</p> <p>男女共同参画に関するリーフレットを作成し、男女共同参画フォーラムの来場者へ配布した。</p> <p>・男女共同参画フォーラム：450部</p>	B	<p>リーフレットについては2種類作成・配布を行い、登米市の男女共同参画の方針やワーク・ライフ・バランスの内容について周知を行った。リーフレットの作成にあたっては、レイアウトや表記の仕方を工夫し、分かり易い内容で作成した。</p> <p>また、講座等の機会にあわせ、内閣府や宮城県発行のパンフレット等の配布も行い、幅広い啓発を行った。</p>	<p>各種イベントや講演会等の機会をとらえ、パンフレット等を配布し、登米市や県、内閣府等の男女共同参画に関する取り組みについて周知を図り、更なる啓発に努める。</p>	市民協働課
<p>④人権を考える講演会の実施</p> <p>市民及び中学生を対象にした講演会を開催し、人権尊重の意識高揚を図ります。</p>	1	<p>【中学生】 開催日：平成28年10月5日(水)～6日(木) 対象：石越・新田・佐沼中学校生徒 参加者：730人 講師：宮本 延春 氏 (元教師)</p> <p>【一般】 開催日：平成29年1月15日(日) 場所：登米祝祭劇場 参加者：450人 講師：花田 景子 氏 (貴乃花部屋女将)</p>	A	<p>【中学生】 アンケート調査を行った結果、講演会開始前の人権問題に対する関心度は全くない、若しくは少しあるという回答が全体を占めていたが、講演会終了後はほとんどの回答で関心や理解が深まったとあり、講演会による高い啓発効果があったと認められる。</p> <p>【一般】 アンケート結果において、講演会終了後は89%の方が関心や理解が深まったとあり、講演会による高い啓発効果があったと認められる。</p> <p>満足度についても86%の方から「大変満足した」、「満足した」と回答があり、参加者にとっても充実した講演会であった。</p>	<p>【中学生】 平成29年度は、前年度に引き続き宮本延春氏を講師に招き、イジメや不登校問題についての講演会を10月に豊里・米山・中田・南方中学校で行う予定である。</p> <p>【一般】 市民協働課と共催で男女共同参画と人権の視点による講演会を開催する予定である。</p>	市民生活課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
⑤人権の花運動の実施 花の苗などを児童が協力しながら育成することを通して、協力や感謝することの大切さを培うための教育を推進します。	1	平成 28 年 6 月 1 日(水)～9 日(木) 花苗栽培セットの配布 錦織・上沼・豊里・西郷・柳津小学校	A	担当教諭に対し、アンケート調査を行った結果、小学校 5 校中 5 校で人権尊重意識の啓発効果があったという回答があり、当運動により人権に対する関心を高め、理解を深める効果があった。 また、錦織・上沼小学校では、登米総合産業高校の生徒と一緒に植栽を行ない、人権尊重の意識を高めた。	平成 29 年度は、6 月上旬に石越・宝江・米谷・米山東小学校・迫支援学校に花の苗栽培セットを配布し、高校生と児童と一緒に植栽する予定。 なお、花の苗は登米総合産業高校より購入予定である。	市民生活課

(2) 関係機関等からの情報収集と市民等への情報提供

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
①男女共同参画に関する情報の収集と提供 国内外の動きや他自治体等の取り組みについて情報を収集し、ホームページや広報を活用して提供を図ります。	1	宮城県内外で行われる各種講座等へ職員が参加し、情報の収集を行った。 ・「平成 28 年度男女共同参画社会づくりに向けての全国会議」(内閣府) ・講演会「ワーク・ライフ・バランス」を考える(宮城県) ・ダイバーシティ推進シンポジウム「本気で取り組む女性活躍」(仙台市) ・平成 28 年度「女性のチカラは企業力」普及推進シンポジウム(宮城県)等	A	宮城県内外で行われる各種研修会に参加することで、先進的な事例や研究成果等についての情報を収集することができた。女性活躍推進の機運の高まりにより、ワーク・ライフ・バランス関係の情報について多く収集することができた。 情報収集結果については、平成 28・29 年度の事業計画にあたり、事業の方向性の決定や講師選定の際に活用することができた。	各種講座や説明会等に参加することで、先進事例等について情報収集を行う。また、国の政策や他自治体の取り組み等についても情報を収集し、今後の事業計画や事業実施に生かしていく。	市民協働課

(3) 調査研究・分析の推進

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
① 各種施策に関する 市民アンケート等の 実施 子育てや介護、人権 教育、生涯学習など、 各種取り組みについての 現状及び課題を把握す るため、市民アンケー ト及び登米市の教育通 信簿による調査を行 い、施策に反映させま す。	1	市の教育行政の取組状況を、住民アンケートや設定した各項目の実数値により評価した。「教育行政評価登米市の教育 通信簿」をまとめ、結果を教育委員会や議会に報告するとともに、ホームページを通して広く公表した。	B	平成 28 年度の実施に当たり、教育委員会 4 項目、学校教育 22 項目、社会教育 14 項目、社会体育 10 項目、教育行政 5 項目、全体で 55 項目について評価を行った。男女の性差なく公平な評価ができるよう、市民対象のアンケート（評価項目 10 項目）を行い、前年度の 543 人を大きく上回る 1,841 人から回答があった。目標達成項目は 55 項目中 20 項目で、昨年度より 3 項目減少しているが、総合評価は 5 段階評価で「3.88」となり、前年度の「3.88」と同等の評価を得た。	公平な評価に向けて、より多くの市民の声を求めるため、減少傾向にあったアンケートの標本数を増やすことができたので、学校や生涯学習関係施設とさらに連携を密にし、標本数のさらなる増加に努める。 評価「3」のものや前年より達成率が下がった項目について、向上計画を整理して教育行政の改善に努めていく。 また、回答しやすい評価項目の設定と、わかりやすい回答結果の集計を目指して、今後も検討を重ねていく。	教育総務課
	1	「子ども・子育て支援事業計画（平成 27 年度～31 年度）」における事業量の見込み・確保方策について、平成 27 年度実績の点検・評価を行った。	B	検証によって明らかになった施設の整備等に応じた事業運営、子育てに関する施策の検討を行うことが必要となっている。	「子ども・子育て支援事業計画」における年度ごとの事業量の見込み・確保方策を分析・検証し、中間年の平成 29 年度において、必要に応じ見直しを行う。	子育て支援課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
① 各種施策に関する 市民アンケート等の 実施 子育てや介護、人権 教育、生涯学習など、 各種取り組みについての 現状及び課題を把握す るため、市民アンケー ト及び登米市の教育通 信簿による調査を行 い、施策に反映させま す。	1	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査 高齢者の要介護状態になるリスク の発生状況及び各種リスクに影響を 与える日常生活の状況を把握し、介 護保険事業の基礎資料とするもの。 ・調査対象 1,500 人（無作為抽出） ・回答者数 1,293 人 ・回答率 86.2%	B	調査結果からは、高齢者が抱え ている健康リスクは様々であり、 介護サービスの充実が求められて いるほか、在宅生活を支える生活 支援ニーズが高い事などが分か り、今後の事業推進に向けた基礎 資料となった。	調査結果を基に、高齢者が 住み慣れた地域で健康に暮 らしていくため、地域住民や ボランティア等の助け合い の仕組みについて地域の中 で活性化を図り、地域の課 題・実情に合わせた支え合い の体制づくりを推進してい く。	長寿介護課
	—	平成 27 年度に策定した「第 3 次男 女共同参画基本計画」の基礎資料と するため、アンケートを平成 26 年 3 月に実施済みであり、平成 28 年度は実 施しなかった。	—	平成 26 年 3 月に実施したアンケ ート結果を、事業計画時の参考資 料として活用した。	第 3 次男女共同参画基本 計画策定後の推進状況の把 握を行うとともに、第 4 次基 本計画の基礎資料とするた め、平成 30 年度に実施予定 である。実施に向け、アンケ ート内容の精査や標本数の 検討を行う。	市民協働課

◆基本目標 3 男女平等教育の推進

男女共同参画社会を実現するためには、一人ひとりが男女共同参画についての正しい意識を持つことが必要であることから、子供から大人まで、性別にとらわれずに社会のあらゆる分野で個性と能力を十分に発揮できるよう、男女共同参画の視点に立った教育・学習機会の充実を図ります。

(1) 男女共同参画の視点に立った学校教育の推進

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
① キャリアセミナー の実施 児童生徒が、「男らしさ」「女らしさ」による固定的な考え方にとらわれずに、適正や能力に応じた進路を選択する力を培う教育を推進します。	1	【小学校】 志教育の視点で各教科・領域において実施した。 【中学校】 全中学校を対象に実施した。 キャリアセミナー、職場体験、職場調べ	B	各小中学校において志教育のものとめる・かかわる・はたすの3つの視点から取り組もうとする意識の高まりが見られる。	これまでの取組を継続させていく。また地域との連携をさらに強化し、活動の質の向上を図っていく。	学校教育課
② 人権教育の推進 人権尊重を基本とした男女平等教育の推進を図ります。	1	・ 道徳の価値項目の中での指導を行った。(年2～3回) ・ 特別活動 学校行事や各種体験活動として、学校ごとに実施した。	B	道徳教育や各種体験学習が充実してきている。少しずつ児童・生徒の心を育てる取組が見られた。引き続き道徳の時数確保、行事内容の検討と改善が求められる。	道徳教育や体験活動において、いじめ問題等への対応も含め大切な事項である。目に見える大きな成果がなくても地道にしっかりと取り組んでいく必要がある。	
③ 一日入学(園)を活用した説明会の実施 一日入学等の多くの保護者が集まる機会を活用して、家庭生活における男女共同参画について理解を深めます。	1	市内幼稚園全園(14園)、市内小学校全校(22校)で実施した。	B	男女が協力して子育てに関わることについての学習機会の場となるよう、例年どおり実施した。	保護者との連携をさらに強化する側面からも内容等の充実を含め検討する。	

(2) 多様な選択を可能にする生涯学習機会の充実

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>①総合型地域スポーツクラブへの支援</p> <p>生涯スポーツにおける男女の健康支援のため、性別や年齢による運動習慣やニーズの違いを踏まえ、あらゆる年代の参加を促進するための環境の整備を図り、スポーツ活動を行う習慣づくりを推進します。</p>	1	<p>総合型地域スポーツクラブの事業で、様々な世代を対象にした各種スポーツ教室、サークル活動等を実施している。</p> <p>・平成 28 年度実績 (参加者数) 50,402 人</p>	B	<p>市民のニーズやライフスタイルに応じた教室の内容（ウォーキング・ノルディックウォーキング・ヨガ・レクダンス・フィットネス等）とし、また開催時間設定も工夫して実施したことにより、参加しやすいスポーツ環境づくりが出来た。</p>	<p>今後についても、総合型地域スポーツクラブへの支援を行っていき、あらゆる年代のスポーツ活動の場と機会の提供を行う。</p>	生涯学習課
<p>②長生大学、先人大学等の実施</p> <p>男女が心身ともに健康で、明るく生きがいのある社会を構築するため、性差なく取組む高齢者スポーツの体験を通じた健康増進や、互いを労わりあう意識の醸成を促す講座を開催します。</p>	1	<p>社会教育（公民館）事業の世代別事業で、長生大学、いきいき教室など、高齢者対象事業を実施しており、公民館・ふれあいセンター（21 施設）で実施している。（指定管理業務委託）</p> <p>また、高齢者のスポーツ推進及び健康の維持・増進、生涯スポーツの普及を図るために、グラウンドゴルフ大会、ユニカール大会、ゲートボール大会等も併せて実施されている。</p>	B	<p>男女関係なく楽しめる生きがい事業及びスポーツ事業について、各公民館・ふれあいセンターが独自の特色ある事業を行っている。</p> <p>特に健康づくりを目的とした運動関係の講座は、高齢者の相互の交流を図るとともに、健康の維持・増進及び生きがいづくりに繋がっている。</p> <p>今後の課題としては、参加者が固定化しつつあるので、より広く参加を呼び掛けることで、いつまでも元気で社会と繋がっていることが実感できる高齢者が増えていくことが大切と捉えている。</p>	<p>今後も、各公民館・ふれあいセンター（21 施設）において、高齢者を対象とした事業を実施していく。その中で、文化系や運動系など、一人でも多くの高齢者が興味を持ち、参加者が増えていくようなバランスの取れた事業も展開していけるよう推進する。</p>	生涯学習課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
③親子交流型講座の実施 家族が互いに協力し合うことの重要性や、家庭生活の大切さなどを学ぶ機会を提供します。	1	南方町域の幼稚園、南方保育所の園児、保護者を対象とした「子育て講座」を実施した。 開催数：4回（6/10、7/9、7/10、12/10） 延べ参加者数：264人	B	親子が触れ合い、楽しみながら絆を深める講座であった。講座を通して親子の触れ合い、家庭の子育て力を育むことが出来た。	社会環境、家庭環境が変化している中で、子育てや家庭教育の大切さを実感していただけるよう、育児支援を行っていく。	生涯学習課
④中学生の子育て理解講座 家族が互いに協力し合うことの重要性や、家庭生活の大切さなどを学ぶ機会を提供します。	1	南方中学校の生徒を対象に、「明日の親となる中学生の子育て理解講座」を実施した。 ・開催日：平成 28 年 11 月 30 日（水） ・参加者：南方中学校 3 学年 78 人、ボランティア 8 人、赤ちゃん抱っこ体験協力者親子 5 組 ・内容：講話「性と生について知ろう！考えよう！」／体験（赤ちゃん抱っこ体験、妊婦スーツ体験） ・講師：市健康推進課 伊藤技術主査	B	生徒は、講座を通して「命の尊さ」「家族」「子育て」の大切さを実感したと思われる。	家族、子育て、命の大切さを中学生に伝えていくため、今後も実施していく。	生涯学習課

(3) 男女平等の視点に立った性に関する教育・啓発の充実

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
①性と生の講座 命の重要性とともに、自分が必要とされているという心を育てるための研修会を実施します。	1	性と生の講座 性といのちの大切さを中心とし、中・高校と連携して実施。助産師・保健師・栄養士が従事した。 ・開催校：市内 7 校 ・参加生徒数：656 人	A	実際の赤ちゃんに触れたり、沐浴を実施したりすることで、より命の大切さを実感したようだった。「食といのち」の関わりについても、栄養士から学ぶことで、具体的に食との関わりを理解出来た。事後のアンケートでも自己肯定感が 2 割高くなった。	様々なワークの工夫をして、具体的に理解できるよう、参加型を考えて行いたい。また、実施していない中学校への働きかけをしていきたい。	健康推進課
②思春期ころとからだの元気サポーター養成講座 命の重要性とともに、自分が必要とされているという心を育てるための研修会を実施します。	1	こころの元気サポーター養成講座 ピアカウンセラー(大学生)、心理士、助産師、保健師、栄養士が講師となり、思春期の心と体について学んだ。グループでのアサーショントレーニングや性感染症の実験を中心に開催した。 ・実施回数：5 回 ・参加生徒数：12 人受講(女子のみ) ・大学生ピアカウンセラー 4 名 ・養護教諭 2 名	A	より専門的な各講師からの講座で、学校では学ぶことが出来ない内容であり、充実感を得ることが出来たようだった。その後の市のイベントへの協力もありつながりを感じた。また、各学校での「性と生の講座」でもサポート役として活躍し、自主性も感じた。	受講後の活躍場所の提供やその後の継続講座も検討していきたい。また、各学校への周知と、参加者数が増えるよう、さまざまな周知方法を検討したい。	健康推進課
③道徳教育や保健教育、学級活動の推進 思春期にある生徒に対して、保健教育、道徳、学級活動等を通じて心身の発育・発達や変化など、人間の性の成熟について理解を深め、互いに相手を理解し、尊重する心情や態度を育てます。	1	・道徳の価値項目の中での指導を行った。(年 2～3 回) ・特別活動を学級活動で実施した。 ・保健体育での指導を行った。	B	互いに相手を理解し、尊重する心など、各教科及び領域のねらいは達成できている。	さらに年間指導計画に基づいて確実に実施していく。	学校教育課

《基本方針 II 男女が共に参画するまちづくり》

○評価の概要

基本方針IIについては、35事業の評価を行いました。

重点目標としている「基本目標1 地域における男女共同参画の推進」については、多様な主体の視点に立った地域活動の推進や、男女共同参画を推進する団体やリーダーの育成、国際交流事業等を通して、地域への男女共同参画意識の浸透を図りました。だれもが参加しやすい環境を整備するため、各種イベントの開催日時や内容を工夫するなど、今後においても男女にかかわらず、市民が地域に参画できる環境の整備に努めます。

また、成果をあげることができた事業（A・B評価）割合が少なかったのは、「基本目標3 職場における男女共同参画の推進」でした。市内企業向けにセミナー等を行い意識の醸成を図りましたが、農林業・自営業従事者の女性支援や高齢者の就業機会確保等の項目について、目に見える成果につながっていない現状です。今後、制度の周知や意識啓発にさらに力を入れて取り組みます。

○評価基準

【実施状況】

1. 実施した
2. 検討したが実施しなかった
3. 検討しなかった

【評価基準】

- A. 計画以上の成果を上げた
- B. 計画どおりの成果があった
- C. 成果をあげることができなかった

◆基本目標 1 地域における男女共同参画の推進【重点目標】

地域社会においては、性別による固定的な役割分担意識から生じる習慣等が依然として強く残っていることから、地域活動に男女が共に参画することの必要性や重要性について啓発を進めるとともに、女性が地域で活躍できる環境整備に努めます。

(1) 男女共同参画の視点に立った地域活動の推進

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
① 地域活動における男女共同参画についての啓発の推進 地域づくりに関する会議や研修会等あらゆる機会を捉えながら、地域活動の場へ年代を問わず男女が参画することの必要性について啓発を行います。	1	市内 21 コミュニティ組織において策定した地域づくり計画に基づく事業実施にあたって、各コミュニティに対し、女性や子育て世代の意見を取り入れながら行うよう助言を行った。	B	男女共同参画の視点を取り入れた地域づくり活動が実践された。	男女がともに市民活動に参画できるよう、先進事例等の情報を収集し、提供を行う。	市民協働課
② 知的障害者社会参加促進事業の実施 障がいの有無にかかわらず、ともに参加できるイベント等の開催により、障がい者の社会参加を促進し、地域社会の一員として相互交流を促進します。	1	知的障害者の社会参加を促進するため、登米市手をつなぐ育成会と業務委託契約を締結し各種事業を行った。 (参加者数：463 人)	B	知的障害者がコミュニケーション文化・スポーツ活動等の社会参加を通じて、日常生活の質的向上を図るとともに、地域社会の一員として相互交流を深めることができた。	知的障害者の社会参加を促進するため、継続した支援を実施していく。	生活福祉課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
③手話通訳相談員の 設置・派遣 手話通訳相談員の派 遣により、障がい者の 社会参加を促進しま す。	1	手話通訳相談員 1 人を配置し、イ ベント等への派遣を行い、障がい者 の社会参加を促進した。 手話通訳相談員の派遣等による相談 受付数：826 人（うち障がい者 115 人）	B	イベントにおける手話通訳や手 話教室等への派遣依頼が増えてお り、手話通訳相談員が認知されて きている。派遣依頼の増加に伴い、 相談受付数も増加しており、効果 的な事業を実施している。	障がい者の社会参加、障が い者に対する理解促進のため、手話通訳相談員の派遣を 継続していく。	生活福祉課
④公園・道路等のバ リアフリー化の推進 高齢者や障がい者、 妊婦や子ども連れの方 など、全ての男女が安 全に地域活動に参画で きるよう環境の整備を 図ります。	2	平成 26、27 年度に実施したバリア フリー調査の結果をもとに、バリア フリー化基準に満たない公園施設 （トイレ・水飲み場、階段、駐車場 等）の改修計画案について検討を行 った。	C	当初、市内都市公園 16 カ所を対 象として改修計画案を検討した が、都市公園の利用者数などを勘 案し、改修工事の優先順位等を再 度検討することとした。	今後も引き続き、改修計画 案の検討を行い、計画策定に 向けて取り組む。策定後は順 次改修工事を実施し、公園利 用者の利便性の向上を図る。 また、公園施設の修繕の際に は、バリアフリー化基準に沿 ったものとする。	住宅都市整 備課
	1	平成 28 年度に工事を実施した道 路整備事業 40 路線のうち、歩道設置 （バリアフリー化）を計画している 8 路線については、すべて歩道と車 道との段差がないフラット型を実施 あるいは整備中である。	A	歩道設置路線については、すべ て計画どおりフラット方式で設置 することができた。 歩道を設置しない路線につい ては、隣接用地との段差を十分考慮 した設計に心掛け、路線設計に取 り組んでいる。	今後も新規計画路線につ いて、歩道の設置を計画する 場合、公園などの公共施設か らの道路乗入について、バリ アフリーを念頭に置いたフ ラット型での設計検討を行 っていくこととする。	道路課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>⑤健康教育の推進事業の実施</p> <p>男女がともに、健康状態に応じて適切に自己管理を行い、生涯を通じて健康に生活できるよう、地域の実情に応じた健康づくりを推進する体制の充実を図ります。</p>	1	<p>健康教育 各総合支所等において、地域のニーズに即した健康教室を開催した。 実施回数：355回 延べ参加者数：10,221人</p> <p>プログラム提供事業 実施回数：12回 延べ参加者数：402人 栄養：4回・心：2回・口：2回・脳トレ：3回・運動：1回</p>	B	<p>通常の健康教育に加え、新たに公民館への健康プログラム提供事業を実施し、内容の充実を図るとともに対象者の年齢層の幅を広げ、男性の参加も促すことができた。</p>	<p>公民館や講師の方々とネットワークの充実を図り、健康課題を共有し、協働での健康づくりを推進する。</p>	健康推進課
<p>⑥食生活改善推進事業の実施</p> <p>男女がともに、健康状態に応じて適切に自己管理を行い、生涯を通じて健康に生活できるよう、地域の実情に応じた健康づくりを推進する体制の充実を図ります。</p>	1	<p>生活習慣病重症化予防事業 特定健診受診後、該当者 122 人に対し、受診勧奨通知と返信用はがきによる受診状況の確認を実施した。受診拒否や返信のない市民に対して、電話や訪問による指導を実施した。</p>	B	<p>対象を、リスクの高い方に絞り、訪問を基本に実施した。 本人や家族へアプローチができた場合は受診につながっていることが多い一方、本人不在等の場合は資料のみ配布の対応となり、未受診のままの傾向がある。</p>	<p>本人にアプローチできない場合や、受診につながらない方について、対象者の生活背景の傾向を探り、対応を検討する。</p>	健康推進課
<p>⑦健康ウォーキング推進事業の実施</p> <p>男女がともに、健康状態に応じて適切に自己管理を行い、生涯を通じて健康に生活できるよう、地域の実情に応じた健康づくりを推進する体制の充実を図ります。</p>	1	<p>これまでの活動を継続し、ウォーキング推進事業を実施した。 ・市内スポーツクラブによるノルディックウォーキング教室（委託事業：豊里、津山） 実施回数：25回 参加者数：362人 ・イオンタウンと共催によるタウンウォーク 実施回数：9回 参加者数：188人 ・メイヤーズウォーク 実施回数：2回 参加者数：341人 ・ウォーキングコースの表示看板設置5カ所 ・登米市オリジナル歩き旅の継続運用登録者数：1,612人</p>	A	<p>ウォーキング推進事業を継続実施した。実施にあたっては、各種団体との協働を心掛け、参加者の増加はもとより、参加者の年齢の幅を広げることができた。 また、登米市オリジナル歩き旅の運用により、普段運動の時間がなかなか取れない働き盛りの方への運動習慣の啓発に努めるなど、誰もが取り組みやすいウォーキングを推進することが出来た。</p>	<p>健康寿命の延伸は、市民の意識改革がカギとなることから、引き続き、各種団体との協働による事業を実施する。</p>	健康推進課

(2) 防災における男女共同参画の推進

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
① 女性防災指導員の育成 災害時の初動活動において、女性の視点を反映させるため、地域防災のリーダーとなる女性防災指導員を育成します。	2	平成 28 年度末現在の防災指導員数は 325 名であり、うち女性は 24 名の登録となっている。 新規講習には、事前申し込みは 2 名程あったものの、日程の都合上、欠席となった。 フォローアップ講習（5 年を目安に受講）には、女性 3 名が受講し各グループに女性目線での意見が取り入れられた。	C	フォローアップ講習での女性目線での発言は、非常に参考となった。	講習はともに丸 1 日要することから、他の行事と重ならないような日程調整及び積極的な呼びかけを行いたい。	防災課
② 男女共同参画の視点を取り入れた地域防災対策講座の実施 性別や年齢、障がいの有無等様々なニーズの違いに配慮した防災対策や災害時の対応が図れるよう、男女共同参画の視点を取り入れた地域防災対策講座を実施します。	1	宮城県と登米市の共催事業である「男女共同参画・多様な視点からの防災実践講座」を実施した。 ・開催コミュニティ（実施希望団体）： 中津山コミュニティ運営協議会 錦織地域振興会 ・延べ参加者数：64 人	B	実際に活躍されている方を講師に招き、身近なテーマで開催したことにより、コミュニティ組織において、男女共同参画の視点を踏まえた防災・減災の取組を推進するための一助となった。	今後の開催にあたって、より多くのコミュニティ組織で実施していただけるよう、積極的に働き掛けを行う。	市民協働課

(3) 男女共同参画の視点を持ったコミュニティリーダーの育成・支援

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>①女性セミナー</p> <p>コミュニティや自治会など様々な活動の場へ、多様な年代の参画を促進し、男女双方の視点を活かした地域づくりを推進します。</p>	1	<p>社会教育事業として各公民館・ふれあいセンターにおいて、指定管理委託業務のひとつである女性セミナーを開催し、地域リーダー育成を行った。この他にも公民館・ふれあいセンターで女性のための講座を多く実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「佐沼女性セミナー」7回開催 参加 242人（迫公民館） ・「女性セミナー」6回開催 参加 95人（豊里公民館） ・「いきいき女性セミナー」5回開催 参加 169人（石越公民館） ・「津山地区女性セミナー」1回開催 参加 22人（津山公民館） ・「女性講座」1回開催 参加 27人（錦織公民館） ・「女性講座」7回開催 参加 90人（宝江ふれあいセンター） ・「女性講座」4回開催 参加 70人（上沼ふれあいセンター） 	B	<p>各公民館・ふれあいセンターにおいて、女性を対象としたセミナー（講座）が開催されている。</p> <p>地域のリーダーとして活躍していただけるよう、実施内容については多岐にわたっており、年間を通して複数回開催されている。</p> <p>若い世代の参加を促し、新たなリーダーを育成していくことが大切である。</p>	<p>今後も、魅力ある内容で各公民館・ふれあいセンターにおいて事業を実施していく。</p> <p>参加者が固定化しないように、参加したことがない方や、若い世代に情報発信をして参加していただき、地域のリーダーとなって活躍できるように推進していく。</p>	生涯学習課
<p>②コミュニティリーダー養成講座</p> <p>多様な視点を活かした地域づくりを行うため、地域の意思決定の場で活躍できる女性人材を育成します。</p>	1	<p>女性リーダー養成講座を開催した。</p> <p>「女性リーダー養成講座『OH!TOMEカフェ』」</p> <p>開催期間：全6回（平成28年7月～10月）</p> <p>対象：市内に在住する20代～50代までの女性25人</p> <p>参加者数：21人</p>	B	<p>男女共同参画の基礎講座、女性の意思決定や行動力向上のための演習、地域における課題を発見するワークショップなど、実践的な講座を実施した。</p> <p>受講後のアンケートでは、地域活動に興味を持ったという方も多く、具体的な活動のビジョンを描いている受講生も見られた。</p> <p>また、受講後に様々な市民活動に参加・参画している方も見られる。</p>	<p>より多くの女性にとって参加しやすい講座となるよう、内容や時期、時間帯等を検討する。</p> <p>また、市政の様々な分野における女性の参画を促進するため、「女性人材リスト」への登録を働きかけ、地域活動等への参画を図るとともに、地域の各種団体との交流を行うことで、ネットワークを構築する。</p>	市民協働課

(4) 男女共同参画を推進する団体等の育成・支援

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
① 地域活動における先進的な取り組み事例の発信 男女がともに市民活動に参画できるよう、市民活動に関する情報の提供を行います。	1	男女共同参画を推進する人材を育成するため、女性リーダー養成講座の内容に、市内で活躍している女性リーダーの講話やとめ市民活動プラザ職員によるワークショップ等を盛り込み、受講後の活動に生かせるものとした。 また、各種チラシ等の情報はとめ市民活動プラザやとめ女性支援センターに提供し、現在市民活動をしている方に発信した。	B	女性リーダー養成講座の受講生については、講師の先生や受講生とのネットワークを活用して地域活動に参加・参画している方も見られ、人材育成という意味での成果があった。	男女がともに市民活動に参画できるよう、先進事例等の情報を収集し、提供を行っていく。 女性リーダー養成講座については、受講生や修了生と既存の市民活動団体をつなげるための取り組みを行っていく。	市民協働課
② 市民活動団体の交流事業の実施による男女共同参画の推進 男女共同参画を推進する団体が相互に協力できるよう、支援を行います。	1	とめ市民活動プラザへの委託事業の中で、市民活動団体の交流発表会を実施した。 「みて!きいて!知って!市民活動『市民活動フェス 2016』」 日時：平成 28 年 12 月 18 日（日） 場所：イオンタウン佐沼セントラルコート	B	女性リーダー養成講座の修了生が所属する市民活動団体によるパネル発表等も行われ、市民活動に参画している団体同士での交流が図られた。	男女を問わず、市民活動に参画する団体の交流を推進するため、とめ市民活動プラザとの協力を行っていく。	市民協働課
③ 市民活動に関する相談・支援体制の充実 男女共同参画社会の実現に向けた自主的な取り組みを行う市民活動団体等を支援することにより、市と市民・各種団体等と連携した取り組みの推進を図ります。	1	市民活動に対する相談会等は、とめ市民活動プラザへの委託事業の中で実施した。 無料相談会の実施（年間 12 回） 相談件数：36 件 窓口相談の実施（随時） 相談件数：55 件	B	市民活動団体の相談については、設立・助成関係の内容が多い。 子育て支援団体等、女性との関わりが多い団体からの相談もあり、女性支援を行う市民活動団体への支援の場となっている。	男女共同参画を主な目的としている市民活動団体はまだ少ないが、女性との関わりが強い市民活動団体もあることから、継続した支援を行っていく。	市民協働課

(5) 外国人が安心して暮らせる環境の整備

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>① 国際交流協会への支援</p> <p>在住外国人の本人及び家族間におけるコミュニケーションや文化的背景の違いなどによる問題について支援を図るとともに、国籍に関わらず互いの文化について理解を深める機会を提供します。</p>	1	<p>登米市の国際交流推進の中核である登米市国際交流協会に補助金を交付し、市民の国際交流事業参加機会を充実させ、国際理解・感覚の醸成を図った。</p> <p>登米市国際交流協会補助金 2,800千円</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語講座〔実施 年間 49 回〕 ・海外姉妹都市交流事業(受入事業等) ・登米市国際まつり〔12月実施〕 ・ジュニア国際塾 ・通訳ボランティア協力(防災訓練等) ・外国語指導助手(A L T)関連事業 ・多文化共生社会形成促進関連事業(交流会等) ・ホームページによる広報活動 ・国際交流関係団体との連携 ・その他各種交流事業実施 	B	<p>日本語講座については、49 回開催し延べ 203 人の市内在住外国人受講生への支援を行った。</p> <p>また、市内小学校 1 校においてジュニア国際塾を実施し、海外文化について学ぶ機会の創出を図った。</p> <p>課題としては、登米市国際交流協会を中心に取り組んでいる国際交流推進事業や多文化共生社会の形成に対応する人材の確保が困難であり、各種外国人支援団体や海外姉妹都市等の関係機関と十分に連携できる体制の整備が必要である。</p>	<p>本市の国際化推進については「交流」を実践することが重要であるとともに、市内に在住する外国人にやさしい環境づくりを主軸とした「多文化共生社会」の形成が必要と考えられる。そのためにも、市民の国際交流意識の高揚は不可欠であることから、今後も多文化共生社会の形成や国際理解の推進、国際交流の担い手となる人材を育成するため、市民、各種国際交流団体、企業等が一体となって、市国際交流協会関係機関と連携を図りながら事業を展開することが必要である。</p>	市民協働課
<p>② 相談体制の充実</p> <p>在住外国人が安心して暮らせるよう、相談窓口の多言語化を図り、相談しやすい体制づくりに取り組みます。</p>	1	<p>市内に居住する外国人の日常生活等における悩みの相談窓口を設置した。</p> <p>業務は、登米市国際交流協会に委託して実施しており、相談日は、定例日と電話相談による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定例日：毎週金曜日開催。あわせて「日本語講座」を実施した。 ・電話相談：国際交流協会事務所(登米総合支所内)にて、月・水・金の日中に実施した。 ・平成 28 年度実績 36 件【英語 1 件、中国語 17 件、韓国語 18 件】 	B	<p>市内在住外国人等への生活支援として、外国人相談窓口を設置し 36 件の相談に対応した。</p> <p>また、市役所内関係部署に対し、外国人相談窓口設置事業について周知を行うことで、事業の利用促進を図るとともに、外国人来庁者に対する体制強化を図った。</p> <p>平成 28 年度は相談員 4 名(英語 2 名、中国語 1 名、韓国語 1 名)で対応したが、事業継続には言語力に加え、様々な相談案件に対応できる人材確保が必要となる。</p>	<p>今後も、言語の障壁による問題の解決に向け、外国人相談員を中心に、より多くの人々が有機的に関わる必要があるとされている。行政窓口や登米市国際交流協会と連携し、周知広報の一層の工夫や相談に対応する人材の確保に努めていく。</p>	市民協働課

◆基本目標 2 家庭生活における男女共同参画の推進

男女が互いに協力し合いながら家事や介護を行い、家庭生活と社会活動の両立を図ることができるよう、性別による固定的な役割分担意識の改善に向けた取り組みを推進します。

(1) 男女の固定的な役割分担意識の改善

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
①性別による固定的な役割分担意識の改善に向けた意識の醸成 世代や性別に関係なく、家族が互いに支え合い、協力し合いながら家事等についてそれぞれの責任を担うよう、パンフレット等を活用した啓発を行います。	1	平成 29 年 1 月 15 日（日）開催の男女共同参画フォーラムにおいてリーフレットを配布し、情報の提供を行った。 「第 3 次登米市男女共同参画基本計画概要版」（登米市） 「だれもが生き生きと暮らせる登米市を目指して 男女共同参画のすすめ」（登米市） 各 450 部	B	男女共同参画フォーラムの参加者に対し、家族が支え合い協力し合いながら家庭責任を分かち合うことの必要性について情報提供を行い、意識啓発を図ることができた。	講演会などの様々な機会を捉え、パンフレットやリーフレットを配布し、意識啓発を行っていく。	市民協働課

(2) 家事・育児・介護等における男女共同参画の推進

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
①男性にとっての男女共同参画講座の実施 男性の育児・介護への参画や育児・介護知識の向上につなげるため、男性を中心とした講座を開催します。	1	男性講座の開催に先立ち、男性の育児・介護への参画の必要性について意識啓発を図るため、市内企業向けにワーク・ライフ・バランスセミナーを実施した。また、市役所内部向けにワーク・ライフ・バランスをテーマとした市職員研修会を実施し、家庭生活への参画の重要性について伝えることができた。	B	企業向けのワーク・ライフ・バランスセミナーにおいては、男性自身が「男性らしさ」に捉われず、仕事だけでなく家庭や地域活動へ参画していくことの重要性について伝えられた。成果として、アンケート回答者全員から内容が理解できたとの回答が寄せられた。 また、市職員研修会についても、家庭参画の重要性に気付く機会となったという意見が寄せられ、意識啓発の機会となった。	平成 28 年度については、育児・介護等をはじめとする、家庭生活への参画の重要性を伝える啓発講座を実施したことから、今後については、家事講座等より実践的な知識の向上につなげる内容で実施していく。	市民協働課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>② 男の料理（家事） 教室の実施</p> <p>「夫は仕事、妻は家庭」という固定的な役割分担意識解消に向けた取り組みを推進します。</p>	1	<p>社会教育事業として、各公民館・ふれあいセンターにおいて、男性のための教養講座として開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「男の料理教室」 3 回開催 参加 22 人（登米公民館） ・「趣味的講座」 8 回開催 参加 157 人（米谷公民館） ・「男の手料理教室」 9 回開催 参加 117 人（石森ふれあいセンター） ・「男の料理教室」 12 回開催 参加 128 人（浅水ふれあいセンター） ・「男の料理教室」 4 回開催 参加 69 人（吉田公民館） 	B	<p>各公民館・ふれあいセンターの社会教育事業のひとつとして、男性を対象に料理講座を実施した。</p> <p>調理やその準備を通して、性別に関わらない家庭での役割のあり方について再認識することで、夫婦・家族における思いやり、パートナーシップづくりのきっかけとなると捉えている。</p>	<p>家庭内での役割分担意識の解消はもちろんのこと、新しい趣味、生きがいとして発展していけるように、今後も事業を推進していく。</p>	生涯学習課

◆基本目標 3 職場における男女共同参画の推進

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進に取り組むとともに、農林業や自営業に従事する女性の就労環境などの整備を図り、男女が共に健康で働き、家庭と仕事を両立できる支援体制の推進を図ります。

（1）男女の雇用機会の均等な確保と待遇の改善

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
①女性の職業生活における活躍の推進に関する啓発の推進 採用から退職に至るまで雇用の分野における男女の均等な機会・待遇の確保等について、法制度の周知徹底を行います。	1	平成 28 年 11 月開催のワーク・ライフ・バランス企業セミナーにおいて、参加者に対し、パンフレット「女性のチカラは企業之力」（宮城県発行）の配布を行った。	B	法制度の周知に加え、女性が活躍している企業の事例を提供することにより、企業における女性活躍の推進に対する取組みの強化をねらいとした意識の醸成が図られた。	企業向けセミナー等の機会を捉え、女性の職業生活における活躍の推進に関する情報提供を行っていく。	市民協働課
②障がい者の就労移行支援事業の実施 障がい者が経済的・社会的に自立した生活を送れるよう、就業支援を行います。	1	福祉事務所生活福祉課障害福祉係や各総合支所窓口のほか、障害者就業・生活支援センター「ゆい」等と連携し、障がい者の就労に関する個別相談や就労支援を行った。 (利用者数) 平成 28 年度実績： 28 人	B	就労系の障害福祉サービスの利用を通じて就労支援を行っているが、就職先となる企業や事業所等に対して、助成制度の周知と障がい者に対する理解の促進を図る必要がある。	企業や事業所等に対する障がい者への理解を深めるため、関係機関と連携しながら啓発活動や研修会等を開催して障がい者の就労を支援していく。	生活福祉課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>③ 高齢者就業機会確保事業の実施</p> <p>高齢期の女性の貧困対策と、年齢にとらわれず働く意欲のある方が生き生きとした生活を送るため、就業支援を行います。</p>	1	<p>(公社) 登米市シルバー人材センター</p> <p>1 会員数 850 人 (H27 : 894 人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 男性 586 人 (H27 : 622 人) ・ 女性 264 人 (H27 : 272 人) <p>2 会員の就業状況</p> <p>性別 会員数・就業実人員・就業率</p> <p>男性 586 人 ・ 467 人 ・ 79.7%</p> <p>女性 264 人 ・ 231 人 ・ 87.5%</p>	C	<p>女性会員の就業率は男性会員より高いものの、会員数は男性会員 68.9%、女性会員 31.1%であり、男性会員に比べ女性会員が少ない状況で、全体の会員数も減少している。</p>	<p>男性会員が全体の 7 割を占める中、会員数の減少及び会員平均年齢の上昇等の課題に対し、退職後の高齢者が入会したいセンターとして受け入れられるよう、魅力的な事業の構築、啓発を行う。</p>	商業観光課

(2) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
① 延長保育事業の実施 保護者がワーク・ライフ・バランスを確立できるように延長保育事業の実施によって支援します。	1	通常保育時間の前後において、保育ニーズに対応した延長保育事業を実施した。 ・公立保育所：1 施設 ・私立保育所：9 施設 ・小規模保育事業所等：9 施設	B	保護者の就労形態の多様化や女性の就労機会の増加により、延長保育を希望する保護者が増加している。現在、受益者負担である延長保育料を無料としているため、徴収について検討が必要である。	延長保育は、保護者の就労形態の多様化により、それを希望する保護者にとっては、ニーズにマッチした保育サービスであるため、延長保育を実施している施設に対し、今後も補助事業を継続し、受け入れを拡大していく。	子育て支援課
② 事業主に対する各種支援制度の情報提供 男女が多様な働き方を選択し実現できるよう、子育てや介護等に関する支援策の情報提供と、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた意識の醸成に努めます。	1	平成 28 年 11 月開催のワーク・ライフ・バランス企業セミナーにおいて、参加者に対し、パンフレット「女性のチカラは企業の力」(宮城県発行)の配布を行い、「女性のチカラを生かす企業認証制度」(宮城県)や「えのぼし認定」(厚労省)、「くるみんマーク」(厚労省)の情報提供を行った。	B	パンフレットの配布により、各種制度について、事業主に対する情報提供が図られた。 また、平成 28 年度には女性のチカラを生かす認証企業から、「いきいき男女・にこにこ子育て応援企業」県知事表彰の優秀賞に選ばれた市内企業もあった。	今後ともセミナー等の機会を捉えて各種支援制度の情報提供を行い、意識醸成を図っていく。	市民協働課
③ 市内企業を対象とした研修会等の実施 男女が多様な働き方を選択し実現できるよう、子育てや介護等に関する支援策の情報提供と、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた意識の醸成に努めます。	1	市内企業を対象に、ワーク・ライフ・バランス企業セミナーを開催した。 テーマ:「私も職場もハッピー!ワーク・ライフ・バランスのすすめ」 開催日:平成 28 年 11 月 10 日(木) 講師:萩原 なつ子氏(立教大学・大学院教授) 参加者数:96 人	A	市内企業向けにワーク・ライフ・バランスの概要に関するセミナーを行った。(公社)登米法人会、(一社)宮城県経営者協会登米支部、登米市産業振興会、(公社)とめ青年会議所と共催したことにより、多くの企業関係者に出席いただいた。 また、内容についても、参加者の 99%の方から良かったとの回答があったとともに、100%の方から理解できたとの回答があり、意識醸成が図られた。	平成 28 年度については、市内企業の経営者向けのセミナーを実施したことから、平成 29 年度は企業の職員向けに実施し、グループワークを通してワーク・ライフ・バランスの具体的な取組を考える機会とする予定である。	市民協働課

(3) 農林業・自営業従事者の女性支援

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>①農産加工者連絡協議会の活動支援</p> <p>地域資源を活用した農産加工、食農体験、食文化の継承などに取組む女性農業者を支援します。</p>	1	<p>農産加工に関する技術研修並びに情報の収集を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修会「食品添加物の働きについて（農産加工のヒント）」 開催回数：1回 参加者数：20人 加工研修会「こんにゃくを作ってみましょう」 開催回数：1回 参加者数：20人 (会員相互の加工品試食会) 移動研修会「女性の立場からの地域農産物の有効活用、地産地消の推進、販売方法の創意工夫」 開催回数：1回 参加者数：16人 <p>新商品の開発を行った。 件数：9件</p> <p>ほか、県事業への参加など</p>	B	<p>女性の視点から、農産加工に関する技術の向上のための研修や情報収集などに意欲的に取り組み、その活動を通じて、新たな商品開発に対する意欲が高まってきている。</p>	<p>新たな商品開発や販路の拡大を促し、農産加工者の所得向上を図る。</p> <p>開発した商品を6次産業化へ繋げていくことで、地域農業の振興を図る。</p> <p>生活改善を図りながら、安全で安心な加工品の普及に努める。</p>	産業政策課
<p>②認定農業者連絡協議会事業の推進</p> <p>農林水産業や農山漁村における女性の地位の向上を目指します。</p>	1	<p>農業経営改善計画の共同申請の推進や認定農業者連絡協議会事業への参加等を行った。</p>	C	<p>平成28年度の農業経営改善計画の共同申請は1件、共同認定から女性への経営移譲は1件であった。また、協議会事業への参加は、少数にとどまっている。</p>	<p>農業経営改善計画の共同申請の推進や認定農業者連絡協議会事業の啓発を行い、女性の参加を促す。</p>	産業政策課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>③家族経営協定締結の推進</p> <p>女性の労働に対する適正評価と経済的自立のため、家族経営協定の普及を促進します。</p>	1	<p>家族経営協定の締結を行った。</p> <p>期間：平成 28 年 4 月～29 年 3 月</p> <p>新規：8 件（うち女性含み 0 件）</p> <p>解約：2 件（うち女性含み 0 件）</p> <p>変更：1 件（うち女性含み 1 件）</p> <p>（平成 27 年度 新規：10 件 うち女性含み 4 件）</p>	C	<p>前年度より新規申請が減った。</p> <p>認定農業者の認定を受け、後継者が各種支援を受けるために締結しているケースが多い。</p> <p>経営に参画する女性の締結がなかったため、これまで以上に、女性農業委員を活用する必要がある。</p>	<p>県農業改良普及センター等と連携し、家族経営協定の普及を促進していく。</p> <p>農業委員を活用して、農業経営主等に制度の周知を行う。また、女性農業委員に働き掛けて、女性が締結しやすい環境の整備を図る。</p>	農業委員会

(4)セクシュアル・ハラスメントの防止に向けた意識啓発の推進

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>①広報等を活用した職場ハラスメントの意識啓発</p> <p>セクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメント※3、マタニティ・ハラスメント※4の防止に向けた意識の醸成を推進します。</p>	1	<p>平成 28 年 11 月開催のワーク・ライフ・バランス企業セミナーにおいて、「男性らしさ」「女性らしさ」の内容に触れ、性別による差別的意識の防止に努めた。</p> <p>また、第 3 次登米市男女共同参画基本計画の概要版を市内公民館や各総合支所に設置した。</p>	B	<p>「男らしさ」「女らしさ」に捉われることにより、様々なハラスメントが発生する恐れがあることから、性別による差別的意識の防止に向けた啓発を行うことで、意識醸成を図った。</p> <p>また、パンフレットの設置により、性別による役割分担意識の解消に努めた。</p>	<p>パンフレット設置による啓発だけではなく、男女共同参画週間にあわせた広報での周知などを行い、意識啓発を行っていく。</p>	市民協働課

◆基本目標 4 政策・方針決定過程への女性の参画

男女が平等に社会のあらゆる分野で政策あるいは方針の立案及び決定に参画する機会が確保されることは、男女共同参画社会の基盤をなす重要なことであるため、審議会や委員会等への女性の参画の拡大を推進します。

(1) 各種審議会等委員における女性登用の推進

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
① 審議会等への女性 委員登用の推進 政策・方針決定過程 への女性の参画を推進 します。	1	市の審議会等委員への女性の登用率調査を4月に実施し、情報の収集と講評を行った。 平成 28 年 4 月 1 日現在 登用率 25.3% (平成 27 年 4 月 1 日現在 登用率 26.4%)	B	登用率については、昨年度とほぼ同水準ではあるが、目標値の登用率 40%へ向けて、女性委員の必要性を促す啓発方法を検討するなど、積極的な登用の推進が必要である。	第3次基本計画に定める目標達成のため、女性の参画に関する推進状況を調査・公表するとともに、女性人材リストの利用促進を図るなど、女性委員の登用を推進する。	全庁
② 女性人材リストの 活用 女性委員を選任する ための環境整備を図り ます。	1	意思決定過程への女性の参画を推進するため、女性リーダー養成講座を開講し、その修了生に「登米市男女共同参画女性人材リスト」への登録を促した。また、各種審議会等委員や地域づくりに関するリーダーとして活躍できるよう、庁内や市内コミュニティ組織に向けて周知を行った。 登録者数：22人	B	平成 28 年度女性リーダー養成講座修了生 10 人のうち、人材リストに登録した者は 6 人であった。登録者がまだ少ないため、登録者の増加に向けて、今後更なる修了生への声掛けが必要である。 また、庁内や市内コミュニティ組織に向けて活用の周知は行っているものの活用実績はなく、より使いやすい方法などを検討する必要がある。	登録者数の増加に向けて、女性リーダー養成講座を継続して開催し、修了生へリストへの登録の声掛けを行うとともに、制度の積極的な活用を呼び掛ける。 また、庁内や市内コミュニティ組織において、リスト活用してもらうため、リスト閲覧方法等の検討を行う。	市民協働課

(2) 市管理職への女性登用の推進

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
①管理職への女性登用の推進 女性活躍推進法に基づく特定事業主行動計画を推進します。	1	女性活躍推進法に基づき、特定事業主行動計画への女性管理職の目標値・取組を追加した。 ・女性管理職の人数：46人 (平成 26 年度：46 人、平成 27 年度：46 人)	B	平成 27 年度と管理職への女性登用数の変化はなかったが、女性管理職登用に対する意識は高まってきている。 また、管理職への女性登用を促進することは、職場内における男女共同参画の意識が高まり、率先垂範という観点からも自治体として地域における役割を果たしている。 さらに、特定事業主行動計画の数値目標達成に向けた取組を行った。	今後、ますます多様化する市民ニーズに的確に 대응していくためには、女性管理職の必要性が高まるものと考えられることから、今後とも、女性職員の研修機会参加等を促進するなどして、女性職員の管理職への育成を含めた登用を促進していく。	人事課
②研修の機会の充実 将来指導的地位となる女性人材の育成に努めます。	1	各種研修受講者の募集は、性別に関わりなく行った。	B	職場外研修（市町村職員研修所の研修など）、職場内研修とともに、機会均等が確保されており、男性職員と同様に能力向上が図られたと考えている。	今後も取組を継続し、各種研修への参加を推進していく。	

(3) 市政への参画の促進

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
①情報公開の推進 市の基本的な計画や条例等の策定にあたっては、市民意見公募（パブリックコメント）による市政への市民参加を促進するとともに、市民に分かりやすい情報発信に取り組みます。	1	市の基本的な計画等の策定にあたっては、市民意見公募による市政への市民参加を促進した。 平成 28 年度市民意見公募件数：4 件	B	各種計画を、検討・構想する段階における市の考え方などを公表することで、意思決定の公正の確保と透明性の向上を図った。 また、意見公募により、協働による開かれた市政の運営を図った。	市民意見公募（パブリックコメント）による市政への市民参加を促進するとともに、市民に分かりやすい情報発信に取り組む。	全庁

《基本方針Ⅲ 男女共同参画の環境を整備するまちづくり》

○評価の概要

基本方針Ⅲについては、18事業の評価を行いました。

重点目標としている「基本目標1 子育てにおける男女共同参画の推進」については、男女がともに子育てに参画できるよう、ライフスタイルの多様化に伴うニーズの増加に対応した子育て環境の整備、子育て支援体制の整備に努め、成果を挙げています。

また、基本方針Ⅲ全体として、全ての事業がB評価となり、計画通り実施されました。今後については、子育てや介護それぞれにおいて、さらに多様化していくニーズをとらえた事業を実施し、男女共同参画を図ることができる環境の整備に向け取り組みます。

○評価基準

【実施状況】

1. 実施した
2. 検討したが実施しなかった
3. 検討しなかった

【評価基準】

- A. 計画以上の成果を上げた
- B. 計画どおりの成果があった
- C. 成果をあげることができなかった

◆基本目標 1 子育てにおける男女共同参画の推進【重点目標】

男性の家事や育児などへの参加について意識啓発を図るとともに、多様化する子育てのニーズに対応するため、社会全体で子育てを支援していく環境づくりと支援体制の充実を図ります。

(1) 子育て環境の整備

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>① 保育事業の充実</p> <p>保育施設の整備及び支援を行って定員数の拡充を図り、待機児童ゼロを目指します。</p>	1	<p>保護者の子育てと仕事の両立を支援し、乳幼児の健全な心身の発達を図るため、通常保育事業の実施のほか、保育施設の整備支援等を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 28 年 10 月 1 日現在の待機者数 62 人（国定義） ○保育施設運営カ所数（定員） ・公立保育所 8 施設（600 名） ・私立保育所 12 施設（855 名） ・小規模保育事業所 12 施設（207 名） ・事業所内保育事業所 1 施設（7 名） ○新規開設等支援 4 施設（104 名） ○認定こども園施設整備支援 2 施設 ○認定こども園運営事業者選定 2 施設 	B	<p>施設整備を支援し、新たに私立保育所 1 カ所（小規模保育事業所からの移行：定員 19 名→40 名）、認定こども園 1 カ所（定員：55 名）、小規模保育事業所 2 カ所（定員：①19 名、②9 名、①②計 28 名）の翌年度開設の支援を行い、定員 104 名増の受入拡充を図ることができた。</p> <p>また、認定こども園整備支援についても、計画に沿って取り組むことができた。</p>	<p>保育施設の定員増加に取り組んでいるものの、依然として保育ニーズが定員を上回る傾向が続いていることから、公立幼稚園・保育所の再編による認定こども園整備に取り組みながら、今後も待機児童の解消に向け事業を継続していく。</p>	子育て支援課
<p>② 放課後児童健全育成事業（放課後児童クラブ）の実施</p> <p>放課後子ども教室と連携しながら活動の場を確保し、待機児童ゼロを目指します。</p>	1	<p>保護者が就労等で昼間家庭にいない児童を対象に、放課後児童クラブにおいて健全な育成を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブ数 19 クラブ（公立 15、民間 4） ・登録児童数 905 人（平均） ・年間開所日数 7,832 日（8 時間以上の開所） 	B	<p>対象児童の拡大に伴い、定員及び実施場所を増やして対応したものの、指導員不足により運営が困難であるため、教員補助員や幼稚園補助員を放課後や長期休暇期間中に放課後指導員として兼務で配置しており、指導員の確保が必要となっている。</p>	<p>平成 28 年 3 月に策定した「登米市放課後子ども総合プラン登米市行動計画」に基づき、生涯学習課において所管している「放課後子ども教室」との一体的な事業実施に向けて事業調整を行う。</p>	子育て支援課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>③ 幼稚園の預かり保育の実施</p> <p>安心して子育てができる社会の実現に向け、多様なニーズに応じた保育サービスの充実と児童の健全育成を推進します。</p>	1	<p>保育所型預かり保育の実施 市内幼稚園 4 施設において、預かり保育時間の拡大と夏休み期間中等の保育を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者数（4 園） 60 人 ・一時保育（夏休み期間中 4 園で 4 園外児の預かり実施） 23 人 <p>従来型預かり保育の実施 保育所型預かり保育実施 4 幼稚園 ならびにそれ以外の園において、従来型の預かり保育を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通年 147 人 ・短期 149 人 	B	<p>待機児童の解消及び多様な事情による保育が困難な世帯等に対する支援ができた。</p>	<p>平成 28 年度から実施した 4 幼稚園における保育所型預かり保育と夏休み期間中の一時保育及び全園で実施している従来型預かり保育について、保護者のニーズに応えられるよう、保育内容の充実を図る。</p>	学校教育課
<p>④ 自立支援教育訓練給付金事業、高等職業訓練促進給付金等事業の実施</p> <p>ひとり親家庭への子育て支援や、経済的自立を促進するため、就業支援を推進します。</p>	1	<p>高等職業訓練促進給付金等事業 4 人に対して計 4,446 千円を支給</p> <p>自立支援教育訓練給付金事業 申請なし</p>	B	<p>これまで、自立支援教育訓練給付金事業の実績はないが、高等職業訓練促進給付金等事業については毎年数名から申請があり、生活の安定に資する資格の取得に一定の成果を挙げている。</p>	<p>児童扶養手当現況届の案内文書を送付する際にチラシを同封しているが、引き続き制度の周知を図っていく。</p>	子育て支援課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>⑤ 医師招へい・地域医療連携の推進</p> <p>産科・小児科などの医師確保と他の医療機関との連携強化を図り、周産期医療及び小児医療体制の充実に努めます。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 東北大学への要請 ・ 東北医科薬科大学への要請 ・ 市、県ホームページへの求人掲載 ・ 県ドクターバンクへの求人掲載 ・ 全国自治体病院協議会への求人掲載 ・ 医師招へいに関する国、県への要望 ・ 医学生奨学金貸付制度の継続 	B	<p>各方面へ医師招へいに向けた働き掛けを行ってきたが、新たな医師の招へいには至っていない状況である。しかし、市民病院小児科においては、平日午後の一般診療や、日曜日における小児救急への対応を行っている。</p> <p>また、米谷病院では東北大学からの応援回数が増え、平成 28 年 9 月より毎週月曜日から金曜日までの外来診療が可能となった。</p> <p>〔課題〕</p> <p>産科・小児科の入院再開は、複数の医師が必要となることから、医師の招へいに努めているものの医師不足の現下にあっては非常に厳しい状況である。</p> <p>産科については、現行の「産科セミオープンシステム」を継続し、本市在住の妊産婦さんが必要なときに、速やかに入院できる体制の構築こそが、本市の産科医療の現実的な体制であると考えている。</p> <p>小児科についても、入院患者の受け入れについては、複数名の常勤医師の確保が必要であり、入院再開については大変厳しい状況である。</p>	<p>今後も、大崎市民病院や石巻赤十字病院との連携を図りながら役割分担を行い、産科、小児科の医療の確保を行っていく。</p>	医療局経営 管理部総務 課

(2) 子育て支援体制の整備

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>①こんにちは赤ちゃん（プレママ）サロンの実施</p> <p>保育士、助産師、保健師、栄養士、心理士等による教育支援を実施します。</p>	1	<p>子育てサポートセンターと連携し、プレママ（妊婦）と1歳未満児を抱える母親を対象として開催した。保育士、助産師、保健師、栄養士、心理士等による教育支援を行った。</p> <p>・実施回数：16回 ・延べ参加者数：113人</p>	B	<p>各専門職の講座とそれをもとに話し合う場を提供し、育児の悩みや不安などの思いの共有や友達づくりが出来た。</p> <p>初めて参加する人はなかなか溶け込めないまま終わってしまうこともあるが、何回か参加することで母親たちの成長が見られ、育児に対する自信を持てるようになっていた。</p>	<p>思いを語り合う時間の工夫をし、より参加型の内容としたい。</p> <p>開催場所についても、民間とのつながりを持ちながら、様々な場所や人との関わりを重視して、切れ目のない支援を実施したい。</p>	健康推進課
<p>②子育て元気サポート事業の実施</p> <p>育児不安を解消するため、精神科医師や臨床心理士等による相談の機会や窓口を確保します。</p>	1	<p>乳児健診時の臨床心理士による集団指導と個別相談を実施した。</p> <p>・実施回数：33回 ・延べ相談者数：70人</p>	B	<p>出産後の心身変化が大きい中、昼夜問わない子育てが始まり、育児疲れや子どもとの関わり方、家族関係等の悩みが出てくる時期に話を聴くことで、自分を振り返り、気持ちを整理する場になっている。また、今後の子育てに向けて前向きに考える機会となっている。</p>	<p>相談希望の方のみならず、専門的観点から臨床心理士のアドバイスが必要と思われる方へも、細やかな支援ができるようにしたい。</p>	
<p>③こころの元気相談室の実施</p> <p>育児不安を解消するため、精神科医師や臨床心理士等による相談の機会や窓口を確保します。</p>	1	<p>登米市民病院において、臨床心理士による継続的なカウンセリングを予約制で週2回実施した。</p> <p>実施回数：104回 延べ相談者数：444人</p>	B	<p>市内医療機関では継続的なカウンセリングの機会が持ちにくい現状であるため、本相談で継続カウンセリングを実施することで、思考パターンや身の置き方などの積み重ね学習ができ、行動変容に繋がっている。また、精神的にも安心して暮らせるための相談の場となっている。</p>	<p>臨床心理士によるカウンセリング体制の継続を図り、精神的な不安の解消に努める。</p>	

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
④ こころの相談の実施 育児不安を解消するため、精神科医師や臨床心理士等による相談の機会や窓口を確保します。	1	各総合支所において、精神科医師、臨床心理士、精神保健福祉士による個別相談を実施した。 実施回数：56回 延べ相談者数：118人	B	住所地の総合支所を会場とした相談日に限らず、相談者の相談内容に応じて、精神科医、臨床心理士、精神保健福祉士など職種を選び、他支所で実施している相談日を紹介できるメリットがある。	相談会場によって相談者数に開きはあるものの、定期的開催することで専門職や専門機関へのつながりができるため、継続実施をしていく。また、必要な方についての継続支援体制の強化を図っていく。	健康推進課
⑤ 新生児全戸訪問事業の実施 地域で安心して子育てができるよう、助産師や保健師のみでなく、保健活動推進員による家庭訪問を実施します。	1	保健師・助産師による専門性を活かし、安心して子育てできるように、情報の提供を行い、継続的な支援を行う。 延べ訪問数：638件	B	市内訪問については、助産師による訪問が全体の6割、保健師による訪問が4割である。保健師との共同で継続支援を実施している。 問題の早期発見に努め、解決策の提案や専門窓口機関の提供が出来た。	病院や他機関との連携により早期の訪問に努め、安心して子育てができるように支援する。また、妊娠期からの支援を目指し、切れ目のない支援を行う。	
⑥ 子育て応援訪問事業の実施 地域で安心して子育てができるよう、助産師や保健師のみでなく、保健活動推進員による家庭訪問を実施します。	1	各行政区の保健活動推進員が、乳児家庭を訪問し、地域とつながるきっかけとし、孤立しないよう地域で見守る体制作りをしている。 延べ訪問件数：365件 (出生数 510 件に対して約 71%)	B	子育て年代の核家族世帯が増加傾向にあるなか、地域と繋がるきっかけのひとつになっている。	訪問受け入れは全体の約7割だが、訪問を拒否する世帯もある。地域とつながりながら子育てするメリットを伝え、地域の中で孤立しない子育て環境づくりを引き続き行っていく。	
⑦ 地域子育て支援拠点事業（子育て支援センター事業）の実施 身近で気軽に集うことができ、親子が安心できる居場所づくりと、育児不安についての相談支援を行います。	1	地域において乳幼児及びその保護者等が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行った。 ・市内 11 カ所で実施 (公立 9 カ所、民間 2 カ所)	B	平成 28 年度中に民間の子育て支援センターが 1 カ所増となった。少子化や核家族化が進む中で、地域において子育て親子の交流ができる拠点となり、いつでも気軽に利用してもらうことで、子育てに対する相談や不安等の軽減を図った。	子育てをめぐる環境が大きく変化する中で、地域において子育て親子の交流等を促進する子育て支援拠点の設置を推進する。	子育て支援課

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>⑧ファミリー・サポート・センター事業の実施</p> <p>安心して子育てや家庭教育を行うことができるよう、地域人材の養成や、託児ボランティアの育成と活動支援を行います。</p>	1	<p>子育てに臨時的、突発的に援助が必要となった市民（利用会員）に対し、子育てに援助できる市民（協力会員）をファミリー・サポート・センターが仲介し、安定した子育て支援を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会員数（平成 29 年 3 月 31 日現在） 協力会員 65 人、利用会員 116 人、 両方会員 5 人、計 186 人 ・援助活動 25 件 	B	<p>少子化、核家族化が進行する中、女性の就業機会の増加に伴い、保育ニーズは多様化しており、子育てに援助が必要な市民（利用会員）が多くなっていると予想されるが、現在の体制では利用者ニーズに応えることが難しく、協力会員の確保や利用料金の設定金額の問題などにより利用状況が伸び悩んでいる。</p>	<p>多様な保育ニーズに応えられるよう、実施形態を検討するとともに、本事業の周知を図り、子育てに援助が必要な市民（利用会員）を支援する。</p>	子育て支援課
<p>⑨子育てサポート事業の実施</p> <p>安心して子育てや家庭教育を行うことができるよう、地域人材の養成や、託児ボランティアの育成と活動支援を行います。</p>	1	<p>子育てサポーターが 30 人登録し、子育てボランティアとして市及び公民館等事業の開催時に、子育て中の方が事業を安心して受講できるよう託児を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施回数 13 回 37 時間 ・ボランティア実施人数 38 人 	B	<p>子育てサポート事業の実施回数は増えているものの、さらなる制度の周知や活動の活性化を図る。</p>	<p>参加者が安心して社会教育事業に参加できるように、有償ボランティアとしてサポートしていく。</p> <p>また、県の子育てサポーター養成講座と連携し、新たな人材の発掘と研修機会を確保し、子育てサポーターの登録者数を増やしていく。</p>	生涯学習課

◆基本目標 2 介護における男女共同参画の推進

現実には全国的に介護や看護を理由に離職・転職をする女性が増えていることから、介護相談機関との連携を密にするとともに、男性の介護知識や介護技術の普及を図ります。

(1) 介護に関する社会的支援の充実

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
①市内介護保険事業 所研修会の実施 介護サービスの質の 向上を目的に、介護保 険制度改正、サービス 提供時の事故状況、各 種届書等の手続き関係 などについての研修会 を実施します。	1	平成 28 年度介護保険サービス事 業者集団指導 県東部保健福祉事務所登米地域事 務所開催の集団指導に参加し、サー ビス提供時の事故状況、各種届書等 の手続き関係の説明を行った。 ・開催数：2 回 ・出席者数：200 人	B	東部保健福祉事務所と合同開催 することで、多くの事業所の参加 が期待でき、県からのお知らせ等 についても県・市・事業所と情報 共有することができる。	介護サービスの質の向上 を目的に、介護保険制度改 正、サービス提供時の事故状 況、各種届書等の手続き関係 などの研修会について、今後 も同様の方向で実施してい く。	長寿介護課
②介護認定調査員研 修会の実施 認定調査員の調査技 術の向上を目的に、新 任調査員研修会、現任 調査員研修を実施しま す。	1	介護認定調査員現任研修を実施 し、介護認定調査員の資質向上を図 った。また、新任の調査員を対象に 研修会を随時開催した。 ・現任研修 開催回数 1 回 参加者数 115 名（男 34 人、女 81 人） ・新任研修 開催回数 5 回 参加者数 12 名（女 12 名）	B	定期的に研修会を開催すること により、調査員の資質向上を図り、 公平公正な調査を行うことができ る。	公平公正な介護認定調査 を行うため、今後も同様の方 向で実施していく。	

(2) 男性の介護知識や介護技術の普及

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>① 家族介護交流会の実施</p> <p>男性が参加しやすい介護に関する講座や家族介護交流事業の実施により、家族が互いに支え合い、協力し合っ て介護を行えるよう意識の醸成に努めます。</p>	1	<p>登米市社会福祉協議会と委託契約により実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：19 回 ・延べ参加者数：266 人（女性含） 	B	<p>介護者のリフレッシュ、情報交換、介護知識の普及の機会となっている。</p>	<p>家族介護者を対象に、家族介護教室や交流会について、平成 29 年度は委託事業所と協議のうえ実施していく。（詳細は今後決めて行く予定）</p>	長寿介護課

(3) 地域における介護支援体制の確立

具体的な取り組み 概要	実施 状況	平成 28 年度事業実績	評価	成果・課題	今後の取り組み	主管課
<p>① 認知症サポーター養成講座</p> <p>認知症や一人暮らしの高齢者が地域で安心して暮らせるよう、地域での見守りや家族介護への支援を図ります。</p>	1	<p>認知症サポーター養成講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催数：33 回 ・参加者：570 人（男 111 人、女 459 人） 	B	<p>1 回あたりの参加者数は減少したが、実施回数は増加している。認知症の普及啓発の機会は維持されている。</p>	<p>認知症を抱える当事者やその家族が安心して暮らすことができるよう、市民に認知症の症状及び対応の仕方を理解してもらい、地域での見守りや家族の支援を行うため、今後も同様の方向で実施していく。</p>	長寿介護課

3 第3期登米市特定事業主行動計画（平成28年度実績）

主管課：総務部人事課

1 職員の勤務環境に関するもの

具体的な取り組み	平成28年度における実績
<p>(1) 子育てに関連する既存の各種制度の周知徹底</p> <p>(2) 妊娠中及び出産後における配慮</p> <p>(3) 男性職員の育児参加のための休暇及び休業の取得促進</p> <p>①男性職員の「育児休業」の取得促進</p> <p>②「妻の出産休暇」、「育児参加休暇」の取得の促進</p> <p>(4) 出産休暇を願い出た職員等への個別説明</p> <p>(5) 出産休暇中及び育児休業中の職員への情報提供</p> <p>(6) 育児休業を取得しやすい環境の整備等</p> <p>(7) 時間外勤務の縮減のための意識啓発</p> <p>①ノー残業デーの徹底</p> <p>②週休日の振替又は勤務時間の割振り変更及び代休日の指定の徹底</p> <p>③業務の簡素合理化の推進</p> <p>④健康面における配慮</p> <p>(8) 年次有給休暇の取得の促進</p>	<p>【女性職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育児休業取得者 <u>29</u>人 （うち、平成27年度以前から引き続きの取得者 <u>10</u>人） ・ 育児短時間勤務取得者 <u>1</u>人 ・ 部分休業取得者 <u>17</u>人 <p>【男性職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育児休業取得者 <u>0</u>人 ・ 妻の出産休暇取得者 <u>19</u>人 ・ 育児参加休暇 <u>4</u>人 <p>○平成28年 年次有給休暇平均取得日数</p> <p style="text-align: right;">_____ <u>9.0</u> 日 / 年 _____</p>

2 その他の次世代育成支援対策に関する事項

<p>(1) 来庁者に対する環境整備</p> <p>(2) 子どもの職場学習機会の積極的な提供</p> <p>(3) 子どもと触れ合う機会の充実</p>	
--	--

3 女性の活躍推進に関するもの

(1) 管理的地位にある職員に占める女性割合の増加	一般行政職 3.37%（全体 23.96%）
---------------------------	------------------------

4 数字で見る登米市の男女共同参画推進状況

(1) 政策・方針決定過程への女性の登用状況

(平成29年4月1日現在)

No	項目	登米市 ※1()内は平成28年度の数値	宮城県平均	最多市町村
1	女性議員の割合	8.0%(8.0%)	10.9%	29.4%(柴田町)
2	市役所の女性職員の割合	管理職	26.1%(24.0%)	37.5%(松島町)
		うち一般行政職 ※2	4.9%(3.4%)	31.3%(柴田町)
		管理職以外の職員	48.9%(49.8%)	66.9%(大崎市)
		総計	45.9%(46.2%)	62.8%(大崎市)
3	市立小中学校PTA会長への女性の就任状況	小学校	9.1%(9.1%)	62.5%(富谷市)
		中学校	0%(0%)	100.0%(山元町)
4	公民館長への女性の就任状況	0%(0%)	4.9%	100.0% (塩竈市、松島町)
5	自治会長への女性の就任状況	0.3%(0.3%)	4.2%	9.7%(仙台市)
6	女性委員がいる各種審議会等の数 [女性のいる機関数 25 / 機関総数 31]	80.6%(85.3%)	79.4%	96.0%(仙台市)
7	各種審議会等委員への女性の登用状況 [女性委員数 148人 / 委員総数 517人]	28.6%(29.1%)	26.8%	37.3%(富谷町)

※1 「宮城県平均」、「最多市町村」の数値は「平成28年度宮城県における男女共同参画の現状及び施策に関する年次報告書」による数値

※2 一般行政職の範囲は、次の職種のいずれにも該当しない職員

税務職、海事職(一)(二)、研究職、医師・歯科医師職、薬剤師・医療技術職、看護・保健職、福祉職、消防職、企業職、技能労務職、任期付研究員、特定任期付職員、大学(短大)教育職、高等(特殊・専修・各種)学校教育職、小・中学校(幼稚園)教育職、高等専門学校教育職、その他の教育職、警察職、臨時職員、特定地方独立行政法人職員、特定地方独立行政法人臨時職員

(2) 審議会等委員への女性委員の登用状況 (平成29年4月1日現在)

・法律による委員会(行政委員会)・・・地方自治法180条の5

No	審議会等名称	委員総数(人)	うち女性委員数(人)	女性の割合(%)
1	教育委員会	4 (4)	1 (1)	25.0% (25.0%)
2	選挙管理委員会	4 (4)	1 (1)	25.0% (25.0%)
3	人事委員会	—	—	—
4	監査委員	3 (3)	0 (0)	0% (0%)
5	農業委員会	46 (48)	4 (4)	8.7% (8.3%)
6	固定資産評価審査委員会	3 (3)	0 (0)	0% (0%)
合計		60 (62)	6 (6)	10.0% (9.7%)

※下段の()内は平成28年4月1日現在の数値

※基準日現在において委嘱されていない場合は「—」と記載

・法律・条令による審議会等（付属機関）・・・地方自治法 202 条の 3（平成 29 年 4 月 1 日現在）

※（）内は平成 28 年 4 月 1 日現在の数値

No.	審議会等名称	委員総数	うち女性	女性の割合
1	登米市情報公開・個人情報保護審査会	5（5）	0（1）	0%（20.0%）
2	登米市防災会議	33（33）	0（0）	0%（0%）
3	登米市総合計画審議会	20（20）	4（4）	20.0%（20.0%）
4	登米市男女共同参画審議会	10（10）	5（5）	50.0%（50.0%）
5	登米市環境審議会	15（15）	4（5）	26.7%（33.3%）
6	登米市国民健康保険運営協議会	9（9）	3（3）	33.3%（33.3%）
7	登米市予防接種健康被害調査委員会	5（5）	1（0）	20.0%（0%）
8	登米市食育推進会議	17（17）	9（9）	52.9%（52.9%）
9	登米市介護認定審査会	121（113）	48（45）	39.7%（39.8%）
10	登米市民生委員推薦会	14（-）	2（-）	14.3%（-%）
11	登米市障害支援区分認定審査会	15（15）	9（8）	60.0%（53.3%）
12	登米市子ども・子育て会議	20（20）	12（11）	60.0%（55.0%）
13	登米市児童厚生施設運営委員会	10（10）	3（3）	30.0%（30.0%）
14	登米町街なみ景観整備審査会	10（10）	2（2）	20.0%（20.0%）
15	登米市都市計画審議会	13（13）	1（1）	7.7%（7.7%）
16	登米市景観形成会議	11（9）	3（1）	27.3%（11.1%）
17	登米市学校給食センター運営審議会	12（12）	6（6）	50.0%（50.0%）
18	登米市障害児就学指導委員会	15（15）	8（7）	53.3%（46.7%）
19	登米市いじめ問題対策連絡協議会	13（13）	3（3）	23.1%（23.1%）
20	登米市いじめ防止対策調査委員会	9（9）	2（2）	22.2%（22.2%）
21	登米市社会教育委員会	10（10）	1（1）	10.0%（10.0%）
22	登米市図書館協議会	10（10）	8（9）	80.0%（90.0%）
23	登米市公民館運営審議会	15（15）	4（4）	26.7%（26.7%）
24	登米市青少年問題協議会	20（-）	0（-）	0%（-%）

No.	審議会等名称	委員総数	うち女性	女性の割合
25	登米市文化財保護委員会	10 (10)	0 (0)	0% (0%)
26	登米市スポーツ推進審議会	15 (15)	4 (4)	26.7% (26.7%)
合計		457 (468)	142 (148)	31.1% (31.6%)

※基準日現在において委嘱されていない場合は「—」と記載

※平成 28 年度に委嘱があっても平成 29 年度に委嘱されていない審議会等については記載していないため、合計欄の括弧内の数値と、No. 1～26 までの数値を合計したものは合致しない。

・要綱等により設置している審議会等（平成 29 年 4 月 1 日現在）

※（）内は平成 28 年 4 月 1 日現在の数値

No.	審議会等名称	委員総数	うち女性	女性の割合
1	登米市行財政改革推進委員会	7 (-)	3 (-)	42.9% (-%)
2	登米市公の施設指定管理者選定委員会	12 (-)	1 (-)	8.3% (-%)
3	登米市行政評価委員会	1 (3)	0 (1)	0% (33.3%)
4	登米市健康なまちづくり推進協議会	18 (-)	6 (-)	33.3% (-%)
5	登米市自殺予防対策連絡協議会	21 (21)	3 (3)	14.3% (14.3%)
6	登米市障害者自立支援協議会	12 (-)	4 (-)	33.3% (-%)
7	登米市要保護児童対策地域協議会	17 (17)	2 (1)	11.8% (5.9%)
8	登米市農業経営改善計画認定審査会	17 (17)	0 (0)	0% (0%)
9	登米市地産地消推進協議会	18 (18)	8 (6)	44.4% (33.3%)
10	登米市地産地消推進本部	7 (7)	0 (0)	0% (0%)
11	登米市農作物有害鳥獣対策協議会	13 (12)	0 (0)	0% (0%)
12	登米市農作物有害鳥獣駆除隊連絡協議会	11 (11)	0 (0)	0% (0%)
13	登米市農作物異常気象対策連絡会議	6 (26)	0 (0)	0% (0%)
14	登米市園芸振興協議会	5 (20)	0 (0)	0% (0%)
15	登米市肉用牛貸付事業運営委員会	12 (12)	0 (0)	0% (0%)
16	仮屋排水機場・荒川・長沼ダム対策委員会	14 (14)	0 (0)	0% (0%)
17	登米市育英資金奨学生選考委員会	12 (12)	2 (3)	16.7% (25.0%)
18	上杉奨学金奨学生選考委員会	12 (12)	2 (3)	16.7% (25.0%)
19	登米市教育研究所運営委員会	13 (13)	3 (2)	23.1% (15.4%)
合計		228 (332)	34 (54)	14.9% (16.3%)

※基準日現在において委嘱されていない場合は「－」と記載

※平成 28 年度に委嘱があっても平成 29 年度に委嘱されていない審議会等については記載していないため、合計欄の括弧内の数値と、No.1～19 までの数値を合計したものは合致しない。

平成 28 年度登米市男女共同参画審議会の開催状況

「登米市男女共同参画審議会」委員名簿

委嘱：平成 28 年 2 月 10 日～平成 30 年 2 月 9 日

《第 1 回審議会》

開催日：平成 28 年 9 月 14 日（水）

開催場所：登米市役所迫庁舎第 4 委員会室

【内容】

- (1) 平成 27 年度男女共同参画の施策に関する推進状況報告書について
- (2) 第 3 次登米市男女共同参画行動計画について

	氏 名	条例第 23 条における 委員区分	備 考
1	伊藤 直喜	男女共同参画に関し識見を有する人	男女共同参画審議会副会長 (平成 24 年 2 月 10 日～) 男女共同参画条例策定委員会委員 第 2 次男女共同参画基本計画策定委員会委員
2	須藤 明美	男女共同参画に関し識見を有する人	男女共同参画審議会委員 (平成 24 年 2 月 10 日～) 男女共同参画条例策定委員会委員 第 2 次男女共同参画基本計画策定委員会委員長
3	日下 修	男女共同参画に関し識見を有する人	男女共同参画審議会委員 (平成 26 年 2 月 10 日～)
4	皆川 洋子	男女共同参画に関し識見を有する人	男女共同参画条例策定委員会委員
5	石井あけみ	関係団体の推薦を受けた人	登米市民生委員児童委員協議会 男女共同参画審議会委員 (平成 26 年 2 月 10 日～)
6	及川さよ子	関係団体の推薦を受けた人	登米市農業委員会 男女共同参画審議会委員 (平成 24 年 2 月 10 日～)
7	大立目忠徳	関係団体の推薦を受けた人	登米市教育委員会
8	林 忠市	関係団体の推薦を受けた人	登米市人権擁護委員協議会 男女共同参画審議会委員 (平成 26 年 2 月 10 日～)
9	及川 康子	公募により選任を受けた人	
10	佐藤 謙一	公募により選任を受けた人	

※会長・副会長以下は、条例第 23 条第 2 項第 1 号～第 3 号順及び五十音順（敬称略）

※男女の構成（男性 5 名、女性 5 名）

だれもが生き生きと暮らせる登米市男女共同参画推進条例

平成23年3月11日

条例第9号

目次

前文

第1章 総則(第1条—第8条)

第2章 男女共同参画の推進に関する基本的施策(第9条—第18条)

第3章 男女共同参画を阻害する行為の制限(第19条—第21条)

第4章 男女共同参画審議会(第22条—第25条)

第5章 雑則(第26条)

附則

私たちは、豊かな水辺空間と肥よくな耕土が広がる登米市で、性別にかかわらず一人ひとりの人権が尊重され、生涯にわたり豊かな人生を実現できるまちを目指しています。

わが国においては、日本国憲法に個人の尊重と法の下での平等がうたわれ、女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約の批准など国際社会における取組と連動しながら、男女平等の実現に向けた取組が進められてきました。

しかし、家庭や職場、地域の中で、男女の固定的な役割分担意識や社会慣行が今なお残っており、仕事と生活のバランスが取れていないこと、重要な方針や計画を決定する場に女性が少ないことなどを改めていかなければなりません。また、あらゆる暴力を禁止する取組の必要性など、人権を尊重する視点で解決しなければならない課題も生じています。

さらに、私たちを取りまく社会経済情勢は、少子高齢化、高度情報化、国際化などの急激で多様な変化が続いており、これらの変化に対応し、だれもが生き生きと暮らせる登米市を築くため、すべての人が性別にかかわらず個人として尊重され、共に責任を分かち合い、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現が求められています。

こうした状況を踏まえ、市及び市民、事業者、教育関係者又は市民団体の協働のもと、男女共同参画社会の実現を目指すことを決意し、ここに、この条例を制定します。

第1章 総則

(目的)

第1条 この条例は、男女共同参画の推進に関する基本理念を定め、登米市(以下「市」といいます。)、市民、事業者、教育関係者及び市民団体の責務を明らかにするとともに、市の施策の基本的事項を定め計画的に推進することにより、だれもが生き生きと暮らせる男女共同参画社会を実現することを目的とします。

(定義)

第2条 この条例で使われる用語の意味を次のように定めます。

- (1) 男女共同参画 男女が、性別にかかわらず、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に平等に参画する機会が確保され、それによって男女が等しく政治的、経済的、社会的及び文化的利益を受けることができるとともに責任を担うことをいいます。
- (2) 積極的改善措置 社会のあらゆる分野における活動の男女間の格差を改善するため、必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、積極的に参画するための機会を提供することをいいます。
- (3) 市民 次のいずれかに該当する人をいいます。
 - ア 市内に居住する人
 - イ 市内の事務所又は事業所に勤務する人
 - ウ 市内の学校に在学する人
 - エ 市内に滞在する人
- (4) 事業者 市内において事業を行う個人又は法人をいいます。
- (5) 教育関係者 市内において学校教育、社会教育、家庭教育その他のあらゆる教育に携わる個人及び法人その他の団体をいいます。

- (6) 市民団体 さまざまな分野において、より多くの人が豊かに生活できることを目的として継続的に活動を行う特定非営利活動法人その他の団体又は自治会等をいいます。
- (7) セクシュアル・ハラスメント 性的な言動を受けた個人に不快感又は不利益を与え、職場などの生活環境を害することをいいます。
- (8) ドメスティック・バイオレンス 夫婦、恋人等の男女間において身体的又は精神的に苦痛を与える暴力的行為をいいます。
- (9) ワーク・ライフ・バランス 仕事と生活の調和のことをいい、だれもが、仕事、家庭生活、地域生活、個人の自己啓発その他の活動について、自らの希望に沿って行える状態をいいます。
- (10) 協働 共通の目標を達成するために、互いの信頼関係のもと、対等な関係に立って協力することをいいます。

(基本理念)

第3条 男女共同参画の基本理念は、次のとおりとします。

- (1) 男女の人権の尊重 男女の個人としての人権が尊重され、男女が直接的にも間接的にも性別による差別的取扱いを受けることなく、個人として能力を発揮する機会が確保され、国籍にかかわらず個人として尊重されることです。
- (2) 社会における制度又は慣行についての配慮 性別による固定的な役割分担意識等に基づく社会における制度又は慣行をなくすよう努めるとともに、これらが男女の自由な活動の選択を妨げることがないよう配慮されることです。
- (3) 政策等の立案及び決定への共同参画 男女が平等に、市における政策又は事業者、教育関係者及び市民団体における方針の立案及び決定に共同して参画する機会が確保されることです。
- (4) 家庭生活における活動と他の活動との両立 家族を構成する男女が、家庭の重要性を認識し、互いの協力と社会の支援のもとに、子育て、介護その他の家庭生活及び職場、学校、地域その他の社会のあらゆる分野における活動が両立できるよう配慮されることです。

- (5) 教育の場における配慮 学校教育、社会教育、家庭教育その他のあらゆる教育の場において、男女共同参画の推進に配慮した教育が行われることです。
- (6) 暴力的行為(身体的又は精神的苦痛を与える行為をいいます。以下同じです。)の根絶 あらゆる形態の暴力的行為を根絶することが、男女共同参画社会を実現するために不可欠であるという認識を持たなければならないことです。
- (7) 性と生殖に関する健康と権利の尊重 男女が互いの身体的特徴及び性について理解を深め、妊娠、出産その他の性と生殖に関し、それぞれの意思や権利が尊重され、生涯にわたり心身の健康を維持できるようにすることです。
- (8) 性同一性障がい者等に対する配慮 性同一性障がいを有する人又は先天的に身体上の性別が不明瞭である人等の人権について配慮されることです。
- (9) 国際的視野での協調 男女共同参画の推進に向けた取組は、国際社会が目指す理想の一つであり、国際社会における取組と密接に関係していることを考慮し、国際的な視野で協調して行われることです。

(市の責務)

第4条 市は、この条例の基本理念(以下「基本理念」といいます。)に基づき、男女共同参画の推進に関する施策(積極的改善措置を含みます。以下同じです。)を総合的に策定し、実施しなければなりません。

- 2 市は、前項の施策以外の施策の策定若しくは変更又は実施に当たっては、基本理念に沿うよう配慮しなければなりません。
- 3 市は、男女共同参画の推進に関する施策を実施するため、必要な推進体制を整備するとともに、財政上の措置その他の必要な措置を講じなければなりません。
- 4 市は、男女共同参画の推進に当たっては、自らが率先し、市民、事業者、教育関係者及び市民団体(以下「市民等」といいます。)との協働により行うとともに、国、県及び他の地方公共団体と連携して取り組むよう努めなければなりません。

(市民の責務)

第5条 市民は、基本理念に基づき、男女共同参画に関する理解を深め、家庭、職場、学校、地域その他の社会のあらゆる分野において男女共同参画の推進に自らが積極的に取り組むよう努めなければなりません。

2 市民は、市又は事業者が実施する男女共同参画の推進に関する施策及び事業活動の実施に当たっては、市、事業者、教育関係者及び市民団体との協働により行うよう努めます。

(事業者の責務)

第6条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念に基づき、男女が職場における活動に対等に参画する機会が確保されるよう必要な体制の整備に努めます。

2 事業者は、男女が共にワーク・ライフ・バランスを実現できる職場環境の整備に努めます。

3 事業者は、男女共同参画の推進に関する市の施策又は他の事業者及び市民が実施する事業活動に協力するよう努めます。

(教育関係者の責務)

第7条 教育関係者は、男女共同参画の推進に果たす教育の重要性を認識し、自ら男女共同参画の理念を理解するとともに、基本理念に配慮した教育を行うよう努めなければなりません。

2 教育関係者は、市が実施する男女共同参画の推進に関する施策に協力するよう努めなければなりません。

(市民団体の責務)

第8条 市民団体は、基本理念に基づき、男女共同参画に関する理解を深め、その運営又は活動に男女が平等に参画できる環境を整備するとともに、方針の立案及び決定に当たっては、男女が互いに能力を発揮できるよう努めなければなりません。

2 市民団体は、市が実施する男女共同参画の推進に関する施策に協力するよう努めなければなりません。

第2章 男女共同参画の推進に関する基本的施策

(計画の策定)

第9条 市長は、男女共同参画の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、基本理念に基づき、基本的な計画(以下「計画」といいます。)を策定します。

2 市長は、計画の策定及び変更に当たっては、第22条に規定する登米市男女共同参画審議会の意見を聴くとともに、市民等の意見を反映することができるよう必要な措置を講じます。

3 市長は、計画を策定又は変更したときは、速やかにこれを公表します。

(推進体制の整備等)

第10条 市は、男女共同参画の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため、必要な体制の整備、情報の収集、分析及び調査研究を行います。

2 市は、市民等が行う男女共同参画の推進に関する活動に必要な環境整備に努めます。

(市民等の理解を深めるための措置)

第11条 市は、市民等が男女共同参画に関する理解を深め、男女共同参画の推進に向けた取組を積極的に行えるよう啓発活動、情報の提供その他の必要な措置を講じます。

2 市は、男女共同参画推進の人材育成を行うため、研修の実施、活動の場の提供その他の必要な措置を講じます。

(事業者が行う活動への支援)

第12条 市は、事業者が行う男女共同参画の推進に関する活動を支援するため、情報の提供、助言その他の必要な措置を講じるよう努めます。

(教育の分野における措置)

第13条 市は、学校教育、社会教育、家庭教育その他のあらゆる教育の分野において、男女平等の意識づくり、個性及び能力の育成、男女共同参画を推進するための教育の充実等に必要な措置を講じるよう努めます。

(家族経営的な農林業及び商工業等の分野における措置)

第14条 市は、家族経営的な農林業、商工業等の分野において、男女が、個人として能力を十分に発揮し、その能力が正当に評価され、経営活動及び地域活動に平等に参画する機会が確保されるための必要な措置を講じるよう努めます。

(仕事及び生活の両立支援)

第15条 市は、家族を構成する男女が、共に仕事、子育て、介護等で家族的責任を果たすことができ、その他の家庭生活、地域等における活動の両立を可能とするため、ワーク・ライフ・バランスに配慮した必要な支援を行うよう努めます。

(政策の立案及び決定への共同参画)

第16条 市は、家庭、職場、学校、地域その他の社会のあらゆる分野における活動において、男女間に参画する機会の格差が生ずることのないよう、市民等と協力し、必要な措置を講じるよう努めます。

2 市は、各種委員会等における委員の委嘱又は任命に当たっては、男女が共に政策の立案及び決定並びに具体的な施策の実施に参画できる機会を確保し、男女の均等な登用に努めます。

3 市は、市の職員の登用に当たっては、性別にかかわらず、本人の意欲及び能力に応じて、均等な機会を確保します。

(実施状況等の公表)

第17条 市長は、毎年、男女共同参画の推進に関する施策の実施状況等を公表します。

(市の施策に関する意見又は苦情の申出)

第18条 市民等は、市が実施する男女共同参画の推進に関する施策若しくは男女共同参画の推進に影響を及ぼすと認められる施策に関する意見又は苦情を市長に申し出ることができます。

2 市長は、前項の規定による申出を受けたときは、適切に対応しなければなりません。この場合において、市長は、必要があると認めるときは、登米市男女共同参画審議会の意見を聴くことができます。

第3章 男女共同参画を阻害する行為の制限

(性別による権利侵害の禁止等)

第19条 すべての人は、家庭、職場、学校、地域その他の社会のあらゆる分野において、性別による差別的取扱いをしてはなりません。

2 すべての人は、セクシュアル・ハラスメント及びドメスティック・バイオレンスを行ってはなりません。

(性別による権利侵害に関する相談体制の整備等)

第20条 市は、前条に関する相談に対し、適切な対応を行うため必要な相談体制を整備します。

2 市は、前条に関する相談に関して、関係機関と連携し、適切かつ迅速に必要な支援を行います。

(公衆に表示する情報への配慮)

第21条 すべての人は、公衆に表示する情報において、性別による固定的な役割分担若しくはセクシュアル・ハラスメント及びドメスティック・バイオレンスの暴力的行為を助長し、若しくは連想させる表現又は不必要な性的表現を行ってはなりません。

第4章 男女共同参画審議会

(男女共同参画審議会)

第22条 市長は、男女共同参画の推進に関する重要な事項について調査審議するため、登米市男女共同参画審議会(以下「審議会」といいます。)を設置します。

2 審議会は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査審議します。

(1) 第9条第2項に規定する事項

(2) 第18条第2項に規定する事項

(3) 前2号に掲げるもののほか、男女共同参画の推進に関し必要な事項

3 審議会は、必要があると認めるときは前項各号に規定する事項について調査審議し、市長に意見を述べるすることができます。

(組織)

第23条 審議会は、委員10人以内で組織します。

2 委員は、次に掲げる人のうちから、市長が委嘱します。

- (1) 男女共同参画に関し識見を有する人
- (2) 関係団体の推薦を受けた人
- (3) 公募により選任を受けた人

3 委員の任期は2年とし、再任を妨げません。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とします。

(会長及び副会長)

第24条 審議会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定めます。

2 会長は、会務を総理し、審議会を代表します。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理します。

(会議)

第25条 審議会の会議は、会長が招集し、会長がその議長となります。

2 審議会の会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができません。

3 審議会の議事は、出席委員の過半数で決め、可否が同数のときは、議長が決定します。

4 会長は、必要があると認めるときは、審議会の会議に関係者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができます。

第5章 雑則

(委任)

第26条 この条例の施行に関し必要な事項は、市長が別に定めます。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成23年4月1日から施行します。

(登米市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)

2 登米市特別職の職員で非常勤のものの報酬及び費用弁償に関する条例(平成17年登米市条例第48号)の一部を次のように改正します。

[次のよう]略

登米市企画部市民協働課

〒987-0511

宮城県登米市迫町佐沼字中江二丁目6番地1

電話：0220-22-2173

F A X：0220-22-9164

E-mail：shiminkyodo@city.tome.miyagi.jp

平成29年8月